



イオアン、セルギエフ

治 25
38 述
内交

○神に對する虚偽の感謝とは何ぞ他なし神より豊富にして寧ろ不
 應なる屬神的及び物質的恩賜を受けつゝ、これが爲に言を以て神に感
 謝するも其の恩賜を他人に頒たす單に己の爲にのみ利用し或は恩賜
 を受けながら之を倉庫櫃又は文庫の中に秘藏し之が爲に多くの同胞
 をして屬神的の教育安慰教訓を受くるを得ざらしめ又は衣食住に窮
 し病中の治療を受け或は生活の資を求めんが爲に甲所より乙所に轉

するを得ざらしむるものは是れ則ち虚偽の感謝なり。是くの如き感謝は虚偽にして且つ神の旨に逆ふものなり。是れ言を以て感謝するも行を以て極端なる忘恩不義を現はすものなり。ア、斯かる感謝否な寧ろ忘恩を表するの徒何ぞ其れ多きや。

○吾人の壞傷せる本性は凡そ神聖なるもの救贖的のものに直に之を忘れんとするの傾向あり是れ罪と慾とが絶えず我が頭腦と心とを昏まし之を占領し之が主權を握りて神聖なる事柄や神の我等に對する至大の慈憐等に關する記憶思想感情を驅逐するに依るなり。故に主の誠と其の悉くの教訓及び其一切の事蹟を忠實に保護し永久に彼れと言ひ盡されぬ仁慈を感謝する聖教會は毎日并に日曜日及び祭日の奉

事毎に我が主イエススバリストスの生活と事蹟中より救贖に益する事件を始め舊新約に於ける主の救贖の攝理と有形無形の世界の創造と當に主の救贖的奇蹟的生涯中の事件のみならず神の子の籍身の機密に名譽の勤を爲したる彼れの至淨の母マリヤの生涯中の事柄及び主の先驅諸使徒預言者諸神品致命者克肖者廉潔者義人其他凡そ熱心神に勤めて神の旨に適へる人々即ち主の教の真理の救贖的なるを證明し彼の約束に由りて永遠の生命を享け嗣ぎたる無数の人々の生涯中の聖なる事蹟を嚴かに書くが如く燦然明瞭に形象的儀式を以て記憶的に行ふべきことを制定したり。是れ我等の信望愛を固むる爲め「ハリスティニアン」の靈性的教育の爲め正教の定理と忠實勇毅忍耐溫柔

和謙遜無慾節制清淨貞操及び其他の諸徳に常に薰陶するが爲め有益にして且つ肝要なり。蓋し主及び其至淨の母并に諸聖人の生涯は諸徳の好模範にして人苟も之に倣はゞ神の旨に適ひ己の靈魂と兄弟の靈魂とを救ふを得べし。

○我等の裡に蟠まるの罪若くは我等の裡に働作する慾念に打ち勝つことは是れ學問中の學問なり例へば何人に對しても何事に就ても決して怒らず何人のことをも悪しく思はず假令人我に害を加ふるも之を悪まず反て出來得る限り之を寛恕するは是れ偉大なる叡智なり貪慾食慾を蔑視し反て日常節制を旨として廉潔自ら持し飧食粗飲に甘んずるは是れ叡智なり何人にも媚びず何人に對しても毅然として直

言するは叡智なり容貌の美なるに眩惑せず乃ち人の美醜を論せず凡ての人に於て一様なる神の像の美を敬するは叡智なり敵を愛し言を以ても意思を以ても行爲を以ても之に復讐せざるは叡智なり自から富を貯へずして貧者に施し以て己の爲に盡きざる財を天に積む(路加十二の三十三は叡智なり。嗚呼我等は一の學問として殆ど研究せざるものなし然れども罪を遠ざくる學問は未だ曾て之を學ばず此の徳義的學問に關しては往々全く無學文盲たらんとす。眞誠の師ハリストスの神聖眞實なる門徒等は眞正の智者眞正の學者にして我等所謂學者なるものは皆無學にして博識と稱せらるゝ人ほど甚しき無學者たらんとす何となれば我等は唯一必要のものゝ何たるを知らず之を行は

すして徒らに自愛名譽淫慾貪慾に役すればなり

○司祭は聖務と高尚なる天上の機密を行ふに當りて地上の事物に戀
 戀たらず敵の捕ふる所とならず常に神に對し并に罪に由りて亡び聖
 神に於けるハリストスの恩寵に由りて救はれんとする同胞に對して
 如何に純潔の愛を燃さるべからざるよされど我等の罪に對する習
 慣は亦如何に大なるよ我等が地上の事物に戀々たるの情は如何に強
 きよ我等機密を執行しつゝ時として全く俗世的の配慮と之に慣るゝ
 に由りて執着の念を脱せざることあり故に敵は之に乗じて我等の知
 識を昧まし惑はし錯亂し我等の心を束縛し我等を捕へて囚虜と爲す
 是れ實地なり空想する勿れ司祭はその思想の高尚なると靈身の清淨

なると萬物の造者たる神及び教主に對し并に己の兄弟たる人々に對
 する熱誠とに由りて眞に天使たらざるべからず

○心を盡して神を愛すとは心を盡して溫柔謙遜廉潔貞操敏智公義慈
 悲及び神の爲に順従を愛し決して此等の諸徳に反することを行はず
 即ち傲慢せず激せず怒らず心に於ても眼を以ても言に於ても思念に
 於ても動作に於ても淫せず貞操を破らす凡そ無分別にして冗なる言
 行を慎み不義を避け吝嗇と貪慾を惡み自肆と不順とを避くべしとの
 謂なり

○慾は恰も残酷なる追跡者の如く吾人を追跡し日々地上の事物に對
 する我等の慾に乘じ吾人をして主と我等の眞誠の幸福に反對して詔

諛好きの「サタナ」に悦ばるゝ事を行はしめんとす。

○我の喜悦光榮の主よ爾は至聖童女より藉身したるに依りて我が像を受け以て人類を尊くし高尚にし肖神にしたるを以て我爾に感謝す爾は我を朽壤より再び不朽に昇せ我が汚穢を潔め荏弱と疾病を醫し憂悲を化して喜悦と爲し有罪の醜々たる情を化して爾の義の豁如と爲し信仰と誠心の痛悔とに依りて慾の暗黒を逐ひ爾の屬神の光を賜ひ心中の擾々を一掃して上より平和を降し怯懦を去りて毅々乎たる勇氣を賜ひたるに依り我爾に感謝す爾の鴻慈に光榮を歸す。

○我聖堂に於て聖像を仰ぎ見爾我が主の聖像と爾の至淨の母聖なる天使及び天使長等の聖像并に諸聖人の像の修飾せられて金銀にて輝

くを見て自ら以爲らく爾萬物の造者及び照管者は如何に我等の本性を尊くし如何に修飾したるよと爾の諸聖人は罪に勝ち身靈の罪の汚を一洗して爾の光にて輝き爾の恩寵にて聖と爲れり彼等は爾の光榮にて光輝を發し爾の不朽にて不朽なり斯くも我等の本性を尊くし照らし且つ高尚にしたるの爾に光榮を歸す視よ爾の使徒及び神品は是れ父の使神品及び牧師長たる爾至上者天を経たる者の活きたる像にして爾の善爾の睿智爾の能力屬神的美と權と威嚴と聖徳は彼等に輝く視よ是れ爾の致命者爾の能力を以て恐るべき誘惑に勝ち慘澹たる苦を甘受したる者にして彼等は爾の血に於て己の靈魂の衣を白くしたり視よ是れ爾の克肖者齋を以て儆醒を以て祈禱を以て爾の奇蹟

を行ふの賜醫治聰明の賜を受けたる者にして爾の能力は彼等を堅うして罪と悪魔の悉くの奸計の上に超然たらしめ爾の肖は彼等に於て輝くこと日の如し。

○聖堂に於て堂内の設備と其の各部分に於て聖像及び聖書の誦讀唱歌儀式を以て行ふ所の奉神禮に於て凡そ舊約新約及び教會歴史上の諸件人類救贖の神聖の攝理は其人物と全般と共に悉く形象的に畫かるゝこと恰も之を圖に見るが如し苟も之を解し之が真相と精神と價値と意義とに徹底する者の爲めには我が正教會の奉神禮は如何に壯觀なるべきよ。

○美食を嗜む者よ己の死せる後汝の許に美食なく絶無空乏の苦痛之

に代る時汝は己の愛を何ものに執着せんとするか汝の不朽の靈魂は何物にて養はるべきか美食は靈魂に適せず貪慾者よ汝は死と共に汝の金銀と諸の寶物の領有と快樂の絶ゆる時汝は己の心の愛を何ものに執着せんとするか其時には此等の金銀寶物は屬神的の者たる靈魂に不必要にして反て其在世の時彼を腐爛せしめ彼を神より遠ざけしめ彼をして不朽の寶たる神を失はしめたる毒とし徴及び鏽として靈魂に戻るものと爲らん勳章名譽を求むるに汲々として世界中の何よりも之を愛せし尊大なる好名家よ死が汝より一切の勳章を剝ぎ去り汝は赤裸々と爲り醜き者と爲る時汝は己の愛を何ものに執着せんとするか此時世の虚名を逐ふが爲に神に遠ざかり偶像崇拜者の如く己

を神とせる不朽の靈魂の糧と爲り生命と爲るべきものは果して何も
 のなるべきか。慾に溺るゝ人は實に淺慮にして自ら己の爲す所の事の
 何たるを知らず己の無智なる慾の爲めに如何なる苦痛と缺乏とを己
 の爲に準備しつゝあるかを知らず己が神の像を賦せられ神の子神の
 友天國の嗣ハリストスの同嗣者等の尊稱を付せられ尊くせられたる
 が爲め己の愚昧に依りて無智なる獸の如くなり貪慾荒淫憎惡嫉妬に
 於て獸の如くなれる(聖詠四十八の三)を知らず故に靈魂にて凡そ地上
 の事物に執着するを恐れよ。

○形象若くは表象は現時の身靈的狀態に於ける人間の本性に欠くべ
 からざるものなり夫の表象は神靈界の事物中形象若くは表象に依ら

ざれば吾人の知ること能はざるものを瞭然目撃するが如く吾人に説
 明すること甚だ多し神たる師萬物を造りし個位的啟智神の子我が主
 イイススハリストスが屢々人々を教ゆるに象或は比喩を以てしたる
 もの之が爲なり正教會の聖堂に於て多くの事物を形象的にハリスティ
 アニンの目に示し例へば主ハリストスを始め至淨の生神女天使及び
 諸聖人を聖像に象どり吾人をして之を見て己の生活思想言語動作を
 主及び諸聖人の思想言語動作の模型に照らして之に則らしめんとす
 るもの亦之が爲なり聖堂に於て屢々十字架を書き香を燻じ蠟燭及び
 燈を點し聖所内より屢々出入するもの亦之が爲なり叩拜躬拜伏拜を
 爲すは我等罪に依りて深く墮落したる故之が爲なり此等のことは皆

吾人をして種々の屬神的事物及び状態を記憶せしむ形象は靈魂の創造的若くは實行的能力に多大の感化を興ふるものなり例へば母は妊娠中屢々その愛する夫の顔を見又は寫眞を眺むる時は能く父に似たる兒生れ又麗はしき小兒の寫眞を見る時は美貌玉の如き子生るゝが如し「ハリストス・アニン」も亦是の如く愛と敬虔とを以て屢々主イエス・ハリストス若くは其の至淨なる母及び諸聖人の像を仰ぎ見る時は乃ち其靈魂亦自から其の懐かしく仰ぎ見る所の者の屬神的印象(即ち溫柔謙遜慈悲節制を受くべし。ア、我等若し屢々主及び諸聖人の聖像を仰ぎ見就中其生活を仰望したらんには吾人は如何に改善し如何に力を得しならん例へば教會若くは家庭に於ける香爐の馨しき芳香は吾

人をして之が類似の點より善行の馨ばしき香の事を想起せしめ又之が反對の點より罪の惡臭の事を想はしめ自省の念深き人をして情慾不節制淫亂憎惡嫉妬驕傲失望及び其他の慾念の臭氣を避け「ハリストス・アニン」の有らゆる美德を以て己を飾らんとするの感を起さしむ香爐は吾人に使徒の「我等は救はるゝ者の中にも亡ぶる者の中にも神の爲に「ハリストスの馨しき香なり彼には死の香にして死に致し此には生の香にして生を致す」哥林後二の十五、十六てふ言を記憶せしめ蠟燭も燈も亦是の如く屬神的の光と火の事を想起せしむ例へば主の左の言なり曰く「我は光にして世に來れり凡そ我を信する者の暗に居らざらん爲めなり」約翰十二の四十六或は「我火を地に投せん爲に來れり此の

火の已に燃えんことを我望むこと幾何ぞ』路加十二の四十九或は『爾等の腰は帯せられ爾等の燈は燃ゆべし爾等は其主が婚筵より歸るを俟ちて彼來りて門を叩く時直に彼の爲に啓かんとする人々に似るべし』(路加十二の三十五三十六或は『是くの如く爾等の光は人々の前に照るべし彼等が爾等の善き行を見て天に在す爾等の父を讚榮せん爲なり』(馬太五の十六)且つ蠟燭又は燈は實體そのものを以て吾人に光及び火に相當する屬神的の事物を想起せしむ例へば我等の心をして常に神と隣に對する愛にて燃えしめ我等をして己の中に愆若くは『ゲエンナ』の火を燃さざらんことを慮らしめ我等をして自ら善行の模範を示して他人を照すこと恰も蠟燭が通常物を照すが如くならしめんことを

想起せしむ。

○ハリストス至潔なる生神女天使及び諸聖人の像を有するは當然の事たり第一吾人の本性之を促す吾人は常に己の前に己の愛する人の像恩人の像を置き之を眺めつゝ屢々其人の事その恩惠の事を想起し之に伏拜し以て吾人が通例生きたる人々就中吾人の敬愛する人々に對する如くせんと欲す次に吾人は神の像と肖とに依りて造られたりされば吾人が常に己の目前に己の原像己の本原たる主神を彼が自ら人々に現はれ給へる像に於て之を眺め以て屢々彼(神)のこと彼が恒に我等と共に居ること并に彼の照管のことを想起し有形の記號或は儀式に於て吾人の神に對する敬虔と感謝と愛情を表せんとするは自然

の情なり、蓋し吾人は肉体を有するを以て有形の像、有形的儀式を要するなり、主自らその寵愛者に現はるゝに形を以てしたるは無論之が爲なり例へばマムレの橡樹の許に於てアウラムに三人の旅人の形にて現はれイサイヤには尊嚴なる寶座に坐する大王の形にて現はれ又預言者ダニエルには老人の形及び之に連れ來られたる人の子の形にて現はれたる如き是なり、若し夫れ見えざる神の見ゆる形にして不必要なりしならんには神は固より見ゆる形を藉りて現はれず我等の肉体に於て地に現はれず僕の貌を受けざりしならん、さればダワイドも常に其顔を尋ねよ、聖詠百四の四と言へり、さればこそ我等は至潔なる生神女天使及び諸聖人の像を作り之を有ちて尊敬するなれ何となれば

彼等は神の活ける像と肖なればなり我等は彼等を仰ぎ見つゝ、彼等の苦行善行及び我等に對する恩恵と彼等の神に對する熱切燃ゆるが如き愛を明々地に記憶し自ら奮つて彼等に則り儆醒して己を戒め靈身の諸の汚より己を清め彼等の功德を讃揚し以て彼等を神の前に於ける我等の辯護者代表者と爲すを得べし蓋し彼等人々に代りて神の前に代求する時は神は己の友己の忠僕の代求として之を容れ給ふがゆゑなり我等は無形体の神靈に非ず乃ち肉体にて包まれ物質的形態を有する者なるがゆゑ見えざる者の形像を尋ぬるは當然にして主が天使等に我等の形を藉り我等の形態に於て吾人に現はるゝ、主の望ませたまふ時の權を與へたる所以のもの亦固より吾人の荏弱を眷顧した

るに依るなり例へば天使長のイイスス、ナウイン、ダウイド、マナ、アンナ、ザハ
 リヤ、至聖童女マリヤ及び其他舊約新約に於ける多くの者に現はれた
 る如き是なり吾人が常に己の愛する人々の寫眞を求めんと欲し又我
 等手づからその像を畫きて之を壁上に懸け或は寫眞帖に挿み屢々之
 を眺めて面のあたり己の敬愛する人々を見以て自ら樂まんと欲する
 もの是れ吾人が日常の生活に於て自ら愛する所の人々の像を有せん
 とするは吾人の本性の然らしむる所なるを證するに非ずや聖像崇拜
 は是くの如く自然の理にして且つ神意に適へる事たるに多くの路得
 教徒及び英國教會派の徒は之を以て不自然にして神意に反するもの
 の如く偶像崇拜又は異端の如くに見做し己の家裡にのみならず會堂

にも聖像を有せず反つて之を有し之に伏拜するを以て罪なりとし之
 に因りて彼等は諸聖人との有形的連絡を失ひつゝ無形的連絡をも失
 ひ信仰敬神の爲に非常に多大の損失を招く蓋し在天在地の教會は一
 體なればなり斯くの如くにして彼等は死者との連絡をも斷つに至れ
 り蓋し彼等は死者の爲に祈禱せず彼等の靈魂に對する献祭——至仁な
 る神を悦ばしむる献祭——をも捧げず以て死者の爲にする教會の祈禱
 の効力に對する不信を現はす斯く無智且つ大膽に在天慶賀の教會と
 の連絡を斷ち祈禱に於て死者との交通を絶ち太初の純潔にハリスト
 スト教を信認する教會との交通を絶てる教會は是れ果して何たる教會
 ぞ。これ果して教會の活ける聖なる體なるか首もなく手もなく足もな

く目もなく耳もなき胴のみを以て有機的活ける體と名づくるを得べきか。而も斯かる社會は尙且つ己の教を以て純潔至醇なるものと揚言し至聖にして一點の瑕疵なき我が教の儀式を度外視す夫の洗禮と聖體——但し實効なき——を除きての外神品機密及び其他の機密を排斥し聖人と彼等の不朽体及び聖像の崇敬を排斥し齋戒脩道死者の爲の祈禱等を排斥したる教は果して純潔の教なるか。是れ福音の教なるか。是れハリストス及び使徒の教會なるか。否々こは人間の慾の感化の下に人間の自恣に由りて成り立ち人間の慾を悦ばしむる自製の教會なり。是れ「不義を以て眞實を阻む」ものなり(羅馬一の十八)是れハリストスの變壞せられたる福音なり。是れ使徒の言の如くハリストスの人々を誘

ふて他の福音に遷らしむるものなり使徒は之を戒めて「或は我等も或は天よりする使者も我等が曾て汝等に福音せし所に異なる福音を傳へば」アナフエマ「たるべし」(加拉太一の六八)と云へり。是れ教會に非ずしてハリストスの体の有害的切斷なり。故に聖像の崇敬は自然的合理的にして神意に適ふもの有益のものなり。

○聖天使及び神の聖人等は是れ善良にして信義ある我等の兄弟及び朋友にして此世の人々の到底援助すること能はざる種々なる事情に際して屢々我等を輔くるものなり。而して此の永遠に存在して我等に恩恵を施すの兄弟は見えざる者なるも我等は己の肉体上彼等を以て常に我等と共に在る者の如く己の目前に之を有たんことを欲するが

ゆるに我等は彼等の像を畫き其像を見て彼等の我等と共にするを想起し彼等が神前に偉大なる勇敢を有ち種々なる事情に際して我等を輔くるを知りつゝ己の祈禱に於て彼等と呼ぶなり斯くの如く聖像崇敬は吾人に益を與ふるものにして我等の本性及び常識に適合し且つ聖書とも符合す蓋し舊約のモイセイの會幕に於ても己に「ヘルウィム」の像有りたればなり聖像は主の「我恒に爾等と偕にして世の終末にまで在るなり」馬太二十八の二十と云ふに應じて主の常に我等と偕に在ること又至聖なる生神女が教會の無形的教訓の首長とし凡そ眞誠の「ハリスティアニン」等の恩寵に依りての母として常に我等に近しとのことを記憶せしむ故に凡そ眞誠の「ハリスティアニン」たる者は皆神の母たり

且つ恩寵に依りて己の女王及び母たる者の聖像を己の家に有ち金銀寶玉等を以て充分に相當の裝飾を施すなり蓋し神に次で至淨なる神の母ほど彼等に取りて至尊至敬なるものあらざればなり主も彼の至淨なる母も或は陰に或は陽はに奇蹟を以て常に我等に證するに彼と彼の母及び諸聖人の聖像を眞實崇敬する事は神の旨に適ふことにして我等に取りて最も利益なることたるを以てす。

○ハリストスの降誕—原始に於て地より我等を造り而して我等に己の神の呼吸を嘘き込める者は地上に來れり「自から生命と呼吸と萬物とを以て衆に與ふる者」行實十七の廿五は來れり一言を以て凡ての見ゆると見えざるものを無より有に呼び出せる者は來れり一言を以て

魚鳥禽獸昆蟲其他凡て彼の全能なる照管と保護の下にある所の受造物に存在することを命じたる者は來れり常に戰慄と喜悅とを以て無量の天使の軍に奉事せらるゝ者は來れり而して其の來る何等の謙卑ぞ洞穴の裡に於て貧しき處女より生れみすぼらしき襤褸に裹まれ馬槽の内に置かれたり噫此世の富貴榮譽よ俯伏せよ須く謙遜と流涕滂沱たる傷心と人類の救主に對する深厚の感謝を以て俯伏し己の富を赤貧困窮の人々に分け與へ須臾にして消え行く幻の如き己の高貴に傲るなかれ真正の高貴は唯徳にあるのみ此世の榮譽よ此に馬槽に於て己の空しきを悟れ故に人皆須らく我等の荏弱を憐し我等を傲慢空虚腐敗及び凡その罪の汚より救はんが爲に來れる神萬物の主宰の其

例なき謙遜と自卑との前に謙遜せよ俯伏せよ。

○罪はそれ自身に於て火なり故に我等は或るものは怒にて燃ゆると云ひ或は肉慾の愛にて又は嫉妬にて燃ゆると云ふされば罪はそれ自身に於て己に火の裁判を負ふなり若し夫れ罪人の悔改せざるが爲め神の慈憐全く彼等を棄つるに於ては此火彼等に取りて如何ならん罪人以外にありては此火果して如何ならん蓋し火の池火の爐火の地獄火の谷あること疑なければなり此等のものゝ存在すること實際なり眞實なり然るに我等無感覺なる者は之を是れ懼れず慄かすして徒らに娛樂の間に生を送り教會に對しては冷淡にしてハリステイアニンの義務を行はず罪に固執す嗚呼我等は禍なる哉

○祈禱は「天に在ます我等の父よ」を始めとして甚だ多端なるも同一の祈禱を復誦するの我等司祭聖役者の務なること猶徳義法の同一の誠命を實行すること一般に人の義務なるが如く然り蓋し靈魂の堅定せらるゝは祈禱の異なるに依るに非ず乃ち之を復誦して我等の思想感情意旨に貫徹し若くは實行上に我等の全生涯に貫徹するに依るなり。

○怨恨を養ふ如き機會發端言語は努めて之を避けよ而して凡ての機會凡ての發端を以て眞實神聖なる愛を顯はすことに利用せよ即ち初め第一の場合に於ては靈魂の怨恨的の意嚮漸々根絶され第二の場合に於ては愛は養はれ且つ固めらるゝなり瞬間たりとも惡意を懷く勿れ乃ち一切を忍び一切に勝つ愛を以て己の惡しき性情に勝ちて常

に凡その人に對して親切なれ剛情放肆及び隣に反抗することを避けよ飽くまで我意を主張して己の惡しき我儘の習慣を實行し故意に他人を害するが如きことを爲す勿れ。

○人間アダム及びエフに一の特定の誠與へられ人々をして此の一の而も行ひ易き誠を行ふを以て神の旨を行ふの習慣を得せしめ—造物の幸福擧つて之を行ふに在り—神に對する愛に確立するを得せしめんとしたり而も翻て之と反對のこと即ち造物主の旨を行はずして造物主に反する己の旨を行ふことに意を注ぐ時は我等人が漸々惡しき事を行ふの習慣を得神の像と肖とに依りて造られたる自己の高尙なる天性を壞傷して神の敵と爲るを見る神の誠命を履行するは是くの

如く夫れ重大にして之を履行せざることは是くの如く夫れ有害なり
 主神は初人に善悪を識別する樹の果實を食ふべからざる特定の誠を
 與へて自ら新造の有智的造物即ち養子に依りて己の子たる者の保育
 者と爲れり然るに人此の保育を排し自らヨリ善く己を治めんと欲し
 たるに於ては其罪果して誰に在りとするか是れ今に至るまで科學美
 術の甚だ進歩し人智の頗る發達したるに拘はらず古今の人自ら己を
 養ふこと能はざる所以なり何となれば太初に於て神の保育を排斥し
 たればなり蓋し吾人の保育者たるべき者は神に非ずして果して誰ぞ
 さればこの時の古今を論せず凡そ神に信頼し神の誠命を格守して生
 活したる者并に今日現に福音と教會の教に循つて生活し之が指導に

從ふ者のみ首尾よく自己の智識的徳義的教育を完成したるなれ當代
 の教育者よ是れ汝等に對する有益の注告なり學問は我等に多々ある
 も實行少し我が青年の頭腦には貯ふる所多きも心の裡には甚だ少く
 否往々殆ど皆無なることあり豈に嘆はしき次第に非ずや實行は文化
 と學問とに適應せずされど我凡の奧義と凡の知識とを明にするあり
 と雖も若し愛なくば我一も益なし(哥林前十三の二三)
 ○教會は聖堂及び奉神禮を以て普く衆人の上に感化を及ぼし完然に
 之を教育す即ち聖像及び聖堂全体の壯麗鐘音唱歌音爐の香并に福音
 書と十字架と聖像に對する接吻供餅及び香吐朗々たる聖書の誦讀等
 を以て人の視聽嗅觸味の五官と想像感情及び智と意旨とに感化を及

ぼすなり。

○我等の祈禱は須く深遠誠實有智豊饒にして吾人の心を豹變し意旨を惡より避けて善に向はしむるものたらざるべからず皮想的の祈禱は偽善なり聖物褻瀆なり空しき祈禱なり『斯民は口にて我に近づき唇にて我を敬へども其心は遠く我に離る』馬太十五の八

○吾人は生神女天使及び諸聖人に祈禱しつゝ、彼等を以て教會——假令罪人たりとも我等も亦屬する所の——教會の唯一の奥妙なる体なりと認め彼等が己の愛に由りて我等の救贖の爲に神に祈禱するを信す吾人は此世の國の諸種の階級及び人々の爲め并に全世界の爲に熱切に祈禱を獻げつゝ、愛の精神と衆人に善を望むこと己に望むが如き希望

とに由りて己をも衆人と共に唯一の大なる体なりと認む又吾人は死者(天上と此世と地下に在るの)の安息を祈りつゝ、彼等をも我等と屬神的の一体と認め彼等が靈魂を以て活き居りて我等も恐らく去りて彼等の許に行くの甚だ近きに在るを信じて彼等が不死の國に於て平和安息を得んことを望む夫れハリストス教の果實とは他に非ず在天在地及び地下の凡ての人々と愛の一致を保つ事是なり教會の精神それは如何に高逸なるよア、吾人若し超然此の精神にまで達し得たらんには如何にぞや須くハリストス教の奉神禮の精神を探り聯禱祈禱機密儀式等の精神に意を注ぎて自ら之に貫徹せよ教會を離れたる者は禍なる哉此世の精神憎惡の精神は全く彼等を愚とするなり。

○神の子の藉身及び神父并に聖三者全体が人類の救贖を慮る事の真相を解する者は獨りハリストスの忠僕たる者のみにしてハリストスの至潔なる体と血との眞價を正當に解する者も獨り彼等のみ此世の人々は恰も無知の獸畜の如く世の悲哀に沈み又肉体の快樂に耽りて生活するものにして神の子の藉身をも貴はず彼の至潔なる機密をも敬はざるなり而して神の被選者は神の事業と姦淫有罪の世に對する神の無限の大愛とを當然に貴ぶが故に神も亦彼等を貴くし彼等を以て奇異なる事業を行ひ聖神は父と子と偕に彼等の中に居り活水は滾々として彼等の腹より流れ出て凡そ神を知る者は恰も甘き流の泉に赴くがごとく彼等に就きて飲む吾等皆悉くハリストスの僕とならん。

○太陽は輝く無形の太陽なる神も亦斷えず被選者の靈に輝く。
 ○神は聖人の内に寓り彼等の名其者と彼等の像に寓る只信仰を以て其像を用ゆべし然らば彼等は奇蹟を行はん。
 ○女幸よ我に心の清淨と心の質撲と爾に對する子たるの信頼と從順と愛とを與へ給へ今も何時も世々に「アミン」。
 ○聖體禮儀は人物を以て種々の物品を以て言を以て動作を以て我等の信の首たる神の獨生子の主イエスハリストスの降誕生活教訓誠命奇跡豫言苦難磔刑死復活及び昇天を示すの一目瞭然たる表象なり。
 聖體禮儀の際には彼自ら冥々に臨在し自ら作用し彼の器たる司祭輔祭を経て萬事を執行す

○信者が己に聖神を招致すること恰も空気の如く容易なり聖神は空気の如く萬物を満たし萬物を貫徹す存らざる所なき者満たざる所なき者なり凡そ熱心に祈禱する者は己に聖神を招き聖神にて祈るなり。

○祈禱が靈魂の呼吸なること猶空氣が身体の自然の呼吸なるが如し。我等は聖神にて呼吸す。祈禱の一言一句も聖神なくしては汝は全心上り言ふこと能はず汝は祈りつゝ主と口と口とを交へて談話す而して汝若し信と愛にて啓かれたる心裡の口を有したらんには同時に汝が求むる所の屬神的幸福を恰も聖神にて彼より吸入せらるゝが如くならん。

○吾人の生命は何ぞ蠟燭の燃えなり之を興へたる者(神)一たび吹けば

忽ち消えん吾人の生命は何ぞ旅人の歩みなり一定の限界に達せば戸は彼に開かれ彼は己の旅装(身体)及び杖を捨て己の家に入る吾人の生命は何ぞ眞誠の本國を領せんが爲め眞實の自由を得んが爲に戦ふ所の曠日彌久流血慘澹たる戦争なり戦争終らば汝等戦勝者と爲り或は敗北者と爲り汝等戦場より賞典授與所に招かれて報酬者より或は永遠の褒賞、永遠の光榮を得或は永遠の罰、永遠の汚辱を受けん。

○人は奥妙至美偉大なる神の造物なり、就中聖人を然りとす。是れ神の星なり、是れ艶やかにして清く妖色なき媚々たる花なり、是れ芳香馥郁たる柏香木なり、是れ高價なる眞珠なり、是れ價の限りなき寶石なり、神の樂園の美しくして果實豊かなる樹なり、嗚呼人は神の奥妙なる造物

なる哉之が造物主照管者に光榮を歸す我が人類を慾の泥中より朽壞
と死より救ひ出して我等を永遠の生命に導き入れし人類の救世主に
光榮を歸す。

○主及び我が聖なる母たる教會ハリストスの無玷にして朽ちざる新
婦に感謝す彼が全地公會及び地方公會に於て我の神に於ける救贖の
蹟きとなり障碍となるべき諸の異端岐教を根絶して我に救の眞の道
を示し之を平坦にしたるに依る彼が毅然として諸の聖教の窘逐者を
撃退し凱旋の名譽を擔ひて我が爲に永遠の生に導き入るゝ聖なる眞
理の王道を防禦したるに依る彼は眞の道を以て我を救に導く主の制
定したる機密を悉く保存したるに由りて感謝す彼は我が爲に莊嚴な

る奉神禮——地上に於ける天使の奉事——を制定したるに依り又彼が神
の子の我等を罪と詛と死より贖ふことに於て顯はれたる神の言ひ盡
す難き仁慈を相當に感謝して記憶せしめんが爲め毎年我が主及び至
潔なる生神女の地上生活中の主要なる事件を祝ひ日々神聖なる聖体
禮儀に於て我が主の地上生活の全般を我に示して之に恭しく意を注
がしむるに依りて感謝す彼は日々奉神禮に於て神の聖なる寵愛者の
功徳を讃揚し我に示すに神に對する信望愛の活例と永遠の生命に導
く種々の道を以てするに依りて感謝す又教會の諸聖師父の著作の爲
め高價の屬神的珍寶とし遺産として我等に貽したる彼等の甘味掬す
べき救贖的文書の爲に彼れ我が聖なる母に感謝すハリストスに於

てハリストスを以て我の救の爲に聖務を行ひ我を神と和せしめ我を
聖にし我を慰め我を固め我を牧し我を天の牢に導く神立の神品職の
爲に感謝す。

○敵の攪亂よりして激烈の試誘を受け憂悲に沈み或は疾病に罹り或
は躓くことあるも憂ふる勿れ是れ皆汝の心と腹とを試むる主の汝を
清淨にし覺醒し矯正し肉慾の荆棘を焼拂ふが爲に下す所の正當の譴
責及び罰なり故に時として汝が甚だ痛心堪へ難き事あるも憂ふる勿
れ汝は痛苦を視ずして此の罰の良き結果と靈魂の健全とを顧みよ身
体の健康の爲に汝何の盡さざる所かある然らば況んや不死の生命を
有する靈魂の健全と救贖の爲にをや汝は萬事を忍ばざるべからず。

○金銀の塊を恃む勿れ乃ち倦ますして萬物就中有智にして言語を解
する己の造物殊更敬虔にして生活する者を深く慮るの神を恃めよ神
の手は就中施濟を行ふ者の爲に乏しからずと信せよ蓋し人として神
より豊かななるものあるべからず汝自身の生活と既往に於て施濟を行
ひたる人々の生活は之が證なり願はくは神獨り汝が心の財寶たらん
汝は彼の像と肖とに由りて造られたる者として全心彼に執着し而し
て斷えず汝の身靈を腐爛する地上の腐敗より遁れよ須く過ぎ去らざ
る生命永遠無窮の世の老いざる生命に向つて急げよ而して汝の力の
及ばん限り衆人をも彼處に導け。

○主よ我をして懇切と喜悅とを以て好んで施濟を行はしめ且つ施濟

を行ひつゝ、我は失はずして與ふるよりも無限に多くのものを受くる
 所以を信するを得せしめよ、我が目をして貧者に同情を表せず、赤貧を
 見るも冷淡にして之を誹り之を責め耻づべき名を以て之に冠し、我が
 心を弱めて善を行はざらしめんとし、我が心を残酷無情ならしめて貧
 者を顧みざらしめんとする人々より避けしめよ、ア、我が主よ斯かる
 人々に逢着すること何ぞ多きや、主よ施濟の事業を矯正せよ、主よ願は
 くは我が凡ての施濟をして害を來さしめずして益を生せしめよ、主よ
 爾自ら爾の貧しき人々に於て施濟を受けよ、主よ願はくは至善全能容
 智奇異なる爾に屢々祈りたる如く此町に貧者を收容する家を建て給
 へ(果して建てられたり)

○ハリストス救世主彼の至淨なる母及び神の諸聖人の聖像を仰ぎ見
 つゝ、神の仁慈に依り神の睿智及び能力に由りて我等の本性が如何な
 る光榮を衣せられ主に忠實なる諸僕が何等の光榮何等の幸福を受け
 んとするかを想ひ無智の慾望と此世の偏愛と地上の腐敗及び塵埃を
 棄て全心全靈を盡して主と彼の福音の聖なる律法とを愛し神より賜
 はりたる天上の職の名譽を全ふし永遠無窮の老いざる生命に向へよ。
 ○ア、吾人若し我等の罪の結果或は善事の結果に意を注ぎたらんに
 は如何にぞや、然らば我等は小心翼翼罪を避けつゝ、如何ばかりか善に
 熱心するならん、蓋し我等深く注意したらんには凡そ罪なるものは時
 に及んで撲滅せられざるに於ては習慣に由りて固着し其根を深く人

心に崩しその會て犯せし罪を想起せしむる事件に際會する毎に彼を
 攪醒しその思想感情及び良心を汚し時として懊惱殆んど死に至らし
 め之を傷つけ之を苦しむるを明かに見るを得べければなり罪の汚泥
 や粘着強く腐蝕甚しきを以て之を洗ひ去らんには實に万斛の涙を要
 す之に反して會て赤誠潔白の心を以て行ひたる善事或は屢々行ふに
 由りて習慣と爲りたる善事は我等をして罪に満たされたる我等の生
 涯を全然無益にのみ徒費せず我等が獸類に似ずして猶ほ人間の如く
 我等も神の像に依りて造られ神聖の光と愛の微光は我等にも猶ほ存
 して假令若干の善事たりとも神の公平無私なる公義の權衡に於て我
 等の惡しき行に對する分銅たるべしと思ふ毎に我が心を悦ばしめ我

が生涯の慰藉となるものなり。

○我が正教會の奉神禮に於て行はるゝ凡ての祈禱亦願感謝詠歌誦讀
 等の内に躍々活動する全人類に對する聖なる愛の精神は我をして感
 動せしむア、夫の深き愛を以て上は國王より下匹夫匹婦に至るまで
 公立の大聖堂より教會の下位の教衆に至るまで單に己の眞實の子の
 みならず全世界の事をも絶えず苦心焦慮しつゝある此の地上に於け
 る神聖なる天の母の機關たる司祭は其れ果して如何なるべきか夫れ
 牧師たる者は教會の子にして教會は之に授くるに神品の恩寵を以て
 し己の眞の子とし神の友として神の寶座に近づけ之に賜ふに偉大な
 る屬神的恩賜と特權とを以てし教會の新郎とし王ハリストス神救世

主の役者及び靈魂の牧者として之に冠するに光榮と名譽とを以てし
 たる者なり然らば此の牧師たる者衆人に對して如何に深き愛を懷か
 ざるべからざるよ彼れ牧師は偏視自愛肉体の情慾驕傲怨恨貪婪怠惰
 憂愁不滿等の諸愆は一切如何に遠く之を遠ざげざるべからざるよ彼
 は衆人に對する神聖の愛にて全然貫徹滿被され罪なくして神の寶座
 の前に立ち衆人の爲に義なる手を舉げハリストスの價すべからざる
 血にて贖はれ己れに托されたる靈魂を早晚救ふことを慮るを以て己
 の至大の要務と爲さざるべからずされど誰か此等に堪へん『哥林後二
 の十六』願はくは主自ら己の仁慈の豊かなるに由りて我等をして此任
 を盡すを得せしめ給はん蓋し我等は冷淡にして自愛に溺れ復讎の念

深く貪婪憂愁怨恨怠惰なればなり。
 ○聖堂に於て屢々歌はる『主憐めよ』の語は果して何の意ぞ是れ罪を
 犯し刑に處せられて赫怒せる公義の審判者に向つて憐愍を請ふ者の
 號叫なり我等は皆己の犯せる無數の罪の爲に永遠の詛永遠の火に處
 せらるべきものにして天父の前に我等の爲に代求する主イエスハ
 リストスの恩寵に依りてのみ纒に永遠の罰より救はるゝを得るなり。
 是れ悔改して己を矯正せんとする確乎たる思念を表しハリステアニ
 ンに適ふの新生活を始めんとする者の號叫なり是れ自ら神己の行の
 審判者より無限の慈憐矜恤を蒙りたるものとして更に他人を憐まん
 とする痛悔せる罪人の號叫なり。

○慾は沸々、濛々、淺慮、奸惡にして其勢や鋭し故に慾に罹りたる人例へば憤怒の慾に罹りたる人の如き其の平靜の狀態に在る時口にだもせざる淺慮不確實、奸惡捏造的の事を吐くこと多し故に自ら實驗に徴して慾の斯かる性質を知りて汝が心中擾亂して憎惡の念起るときは第一自ら一言をも發する勿れ而して凡そ激怒して罵詈誶を汝に浴せかくる人あらば其事の不正當なると正當なるに拘らず之を恕せよ。

○光と熱との太陽より分たれざる如く神聖師たるの品位、仁愛慈憐は司祭たる者より分つ可らず蓋し彼の戴けるは是れ誰の位ぞ、ハリストスの位なり彼れが斯く屢領する所のものは是れ誰ぞハリストス神其者と彼の體及び血なり故に司祭は屬神界己の被牧者の範圍内に於て

は恰も自然界に於ける太陽の如くなりて衆人の爲に光と爲り、施生の溫暖と爲り衆人の精神と爲らざるべからず。

○救主の藉身し給ひたるは獨り罪と慾とが我等を制し我等の既に之に包圍せられたる時に當りて我等を救はんが爲めのみに非ず乃ち罪と慾とが力を極めて我等の中に闖入せんとし我等と戰ふ時に於て我等の祈禱に由りて我等を救はんが爲めなり情慾の我等を襲ふ時は決して袖手安閑として眠るべからず乃ち此時に於てこそ自ら誠め警醒してハリストスに祈り我等をして罪を犯すに至らざらしめんことを求めざるべからず失火の際家を救ふは火勢の既に猖獗を極めたる時に非ずして火焰の起り始むる時を優れりとす靈魂に對するも亦猶ほ

斯くの如し靈魂は家にして慾は即ち火なり『惡魔に處を與ふる勿れ』以弗所四の廿七

○戦を懼るゝ勿れ之を避くる勿れ戦のなき處には徳もなし忠順及び愛の試誘なき處には主に對する忠順と愛果して之れあるや否知るべからず我等の信望愛は之と反對なる事情即ち内外の困苦艱難の場合疾病憂愁窮困等に於て認めらるゝなり。

○施濟は種なり汝若し施濟が百倍の良果を結ばんとを望まば質朴にして善良鴻慈惻愷の心を以て人に施し以て此種子を善きものと爲せ而して汝は凡そ貪婪若くは利己の目的を以てせず乃ち善良の心を以てし報酬者に對する信仰を以て施したらんには汝の失ふ所多からず

否な寧ろ毫も失はざるのみならず朽つべき施濟を経て無限に大なる報を得んとするを信せよ『爾等が之を我が此の至と小き兄弟の一人に行ひしは即ち我—爾等の主—に行ひしなり』馬太二十五の四十

○人間の思想はその心と行爲の情態と傾嚮の上に極めて強き影響を及ぼすものなり故に心を清くし善良にし安穩にし意旨の傾嚮を善良敬虔ならしめんとせば須く祈禱を以て聖書及び諸師父の著述を誦讀するを以て浮世の快樂の朽ち果つること其の過ぐるの速かなること雲散霧消することを潜思熟慮するを以て己の思想を洗淨するを要す。

○汝は己れ或は他の或人若くは衆人に屬神的の或幸福を望むか而も主は業に既に久しく汝よりも先に汝及び他人に唯神の賜を受けんと

するの決心あり且つ之を受けんとする者聊かたりとも之を受くるに堪ふるに於ては之を與へんと欲し且つ與ふるの意あり何となれば神は無限の仁慈無限の善にして常に凡ての幸福を與ふるの意あり且つ往々其の求むるに先だちて之を與ふることありて要するに『我等の中に行爲する能に循ひて我等が凡そ求むる所或は思ふ所よりも極めて多く爲すを得るなり』以弗所三の廿故に予は常に希望と勇敢とを以て主に屬神的の幸福を求め且つ必要なる場合に於ては物質的の幸福をも求む然かせば主は己の偽なき許約に應じて之を與へ給ふ主は約して曰く『求めよ然らば汝等に與へられん尋ねよ然らば遇はん門を叩けよ然らば汝等の爲めに啓かれん蓋し求むるものは得尋ぬるものは遇

ひ門を叩く者には啓かれん』馬太七の七八)

○我等の身體は復活の后には地に屬するものと爲らずして屬神的と爲り凡て地に屬するものは地に遺されん『ハリストイアニン』よ吾人は己の未來の斯かる生活を想ふて此世の事物より漸々脱離せん斯かる屬神的の人々は死者の復活に際して神の使等の天に在るが如くならん(馬太二十二の卅)されば彼處には我等の身體を養ひ暖め且つ支ふるの飲食物もなく衣服もなく空氣もなく溫暖も有らざらん『乃ち義と和平と聖神に由る喜あるのみ』羅馬十四の十七『今や我等の地に屬する身體は地にて即ち地の元質にて支へらるされど彼の時には凡て體質は燃え毀れ地及び之に載する事物は皆焚け盡さん』彼得后三の十)されば我

等の身體と生活とに於ける我等の運命のこの未來の變遷を想ふて奥妙にして籍身したるの神を見虚しき世を避けて、神聖なる事に我が心を傾けん、蓋し神の地に降りたるは我等を天に昇さん爲めなればなり

(第八小讚詞) 屬神的身體は物質的元質的身體とは全く異なるなり『神は萬有の中に萬事たらん』(哥林多前十五の廿八)

○主は我等を屬神的及び物質的の二元素即ち理性的の靈魂と物質的の支持を要する物質的の身體より組織したるが故惡魔は百方此の我等の天性の二様なるに乘じ我等をして神に望を屬せせして肉體的事物に望を傾かしめ肉體を以て我等を飽食淫行不淨貪婪強慾嫉妬怠惰窃盜吝嗇怨恨殺害等の諸罪に誘ひ以て己の爲に利益を求め神と我等

を害せんとす例へば惡魔は我等に諭し我等を強ゆるに神に望を屬せずして金銀飲食親族の關係官位勳章特權家柄の高貴なること智識教育書籍等に望を屬すべきを以てし飲食衣服音樂劇場笑話空談諧謔等に於て快樂を求むべきを勸諭すされど神の眞實の僕は常に萬事に於て『凡そ爾等が慮る所を彼に託せよ蓋彼は爾等を顧みるなり』(彼得前五ノ七)と云ふの言を記憶して一切の中に一切を行ふ萬物の父及び照管者たる己の主に望を屬す苟も心中騒々然として強迫の起るあらば則ち「ツエリアル」の所爲なるを看破して直に磐即ちハリストスを以て彼に對立せしめよ、「ツエリアル」は彼ハリストスに衝り立るに己が齒を碎きて汝にまで達せざらん然れとも汝は慎みて衆人を愛すること己の如く

せよ。

○我れ清き全心を以て女宰生神女聖天使及び諸聖人等と呼ぶ時はその我に近き事猶ほ我が靈の我に近きが如く彼等が我を聴くこと猶ほ我自ら己の聲を聴くが如し蓋し皆一体一靈にして天使及び人間の教會は一なり。身体の諸肢が相互に離るべからざるの關係を有するが如く教會の會員も相互に離るべからざるの關係を有す即ち相互に務め相互に助け相互に支へ相互に救ふなりされどプロテスタント派にありては如何

○「ハリステイアニン」は聖堂に於て天使及び諸聖人等の面影に圍繞せられつゝ自ら如何なる高尚神聖の社會の中に在るの感を爲すか彼も亦

此等諸聖人の屬せる教會の會員なり是れ徳義上の變更及び夫の聖人等の進んで求め得たる不老の生活に趨向することに對する何等の獎勵を。

○惡魔は此世に於て人間の身靈上の天然的需要を過度に奮興して人間を浮虜にし之に勝つ例へば飲食の需要萬事金錢にて求むるを得るが故金錢の需要をも衣服の需要快樂の需要祭擧の需要等是なり惡魔は凡そ神が人の本性に賦したる此等の人間の需要を極端の範圍にまで膨脹し時としては何等の必要もなきに之を満さしめんとして例へば飲食の如き断えず壞傷し以て人間の身靈を溺らしめ靈魂を肉慾的のものに執着せしめ若くは之を情慾界に墮落せしめ憎惡傲慢嫉妬憂

悲懶惰食慾淫行沈湎貪婪好名及び其他の諸慾に陥らしめて靈魂を神より離れしめんとす。故に守齋童貞廉潔溫柔謙遜溫良信望愛祈禱神を默想する事等は必要なり。

○全力を盡して己の心即ち至誠隣の喜愛に對して同情を表するの能力を守り人の種々の不幸災難疾病窮乏等に對して冷々淡々たる情は致死の毒として之を避けよ蓋し同情に於て就中實行的同情に於てハリストイアニンの愛及び善は表現するも——愛は即ち全律法なり——冷淡に於ては之に反して我等の自愛我等の憎惡惡意嫉妬表現するなり。されば汝は凡そ教會が祈るべく命する所の者の爲に祈れ或は甘心隨意己の爲に祈るか如く衆人の爲に祈りて至誠の念を弱むる勿れ汝等が

祈る所の人々に對して内心の尊敬を失ふ勿れ愛の聖なる火を消し汝の光を暗まさしむる勿れ汝の心を益害し汝の心中に衆人に對する嫌惡の情を扶殖し隣に對する福音の愛の最良の證據たる衆人の爲に捧ぐる祈禱を汝の口より絶たしめんと努むる敵の奸計を見て憂ふる勿れ。

○主よ願はくは爾の聖堂をして凡そ信と敬虔と神を畏るゝの心を以て其堂に来る者に靈魂の光照罪の洗淨靈魂の成聖平和健全寧靜を傳ふるを得せしめ信望愛を固め品行の矯正凡その善良なる企圖及び事業の成效相互の愛ハリストイアニンの方正なる生活心の融和に助力せしめ自愛慘酷貪婪強慾嫉妬憎惡食慾沈湎荒淫等社會の生活上に大害

を及ぼし其生活の根底を破壊する悪癖を絶滅することに助力せしめよ。主よ願はくは凡そ好んで爾の聖堂に詣る者に此等の恩を賜へ而して聖堂に詣ることを好まざる者をして亦好んで之に詣るの心を起さしめその心と行とを矯正するを得せしめよ。蓋し身分と位置とを論せず老若男女を問はず悉くの人の爲に審判の時は近く已に其門に在り衆人がハリストスの恐るべき審判に出で應答を爲すべき無限に重大なる事件は眼前に横はればなり。

○今日吾人の焦慮と資力とは悉く擧つて身体の朽つべき衣服と裝飾とに傾注する時に當りて吾人は何時如何にして靈魂の不朽の衣たる溫柔正義貞操忍耐慈憐等を慮るべきか。人は二主に事ふる能はず蓋し

靈魂は單純唯一なればなり。今日吾人が朽つべき富のみを渴望し全力を盡し有らゆる方法を以て之を集め心は神に向はずして、金錢と此世に粘着する時に當り何時如何にして不朽屬神的食物恩寵の飲物たる祈禱神言聖書諸聖人の傳記の誦讀主の体血の領食等の事を慮るべきか。今日吾人が此世の空しき遊戯快樂に絶えず耽る時に當り靈魂をして如何にして聖神にて樂ましむるを得べきか。嗚呼敗壞に役することは我等を永遠不朽真正の生命より遠ざくるものにして有害なる哉。

○我等祈禱する際高尚神聖の事物と相並んで地上浮世的微々たる事物は奇怪にも我等の思想の中に廻轉す例へば神と共に或る愛する物金錢又は衣服帽或は旨き飲食物或は赫々たる勳章褒章勳綬等思想に

浮ぶ我等は斯くも輕佻偏頗放心なり是れ眞の神及び其子イエスハ
 リストスと聖神とを知らざる異教人に適することにして決して財寶
 を此世に有たずして天に有する「ハリストスファニン」に取りて不似合のこ
 となり全心を傾けて神に従ふ者の心裡に滾々として湧出する活水は
 我が心の裡の何處にありや此活水は塵世の虚事と他の諸慾とを以て
 心中より驅逐せられたるを以て其心裡に存せざるなり眞理は曰く「爾
 等は神と財とに兼ね事ふる能はず」馬太六の二十四と。
 ○像と原像との間——敬虔の人と神との間諸肢と首牧者と羊幹と蔓枝
 との間には相互に密接の關係ありア、若し人々常に此の眞理を信じ
 且つ之を解したらんには如何にぞや我等は何等の一致和合何等の愛

と廉潔に於て生活し自ら靈身にて極めて荏弱なるものとして先づ己
 に對して神及び人の寛大と慈憐とを蒙むるの必要なるを知りて相互
 に如何に相慈み相互に如何に相恕することなるべきよ。
 ○恩寵の理解 恩寵とは何ぞや是れイエスハリストス或は聖三者
 の名に依りて領洗したる信者に賜はり之を清め之を聖にし之を照ら
 し善を行ひ惡より遠ざかることに助け危難憂愁疾病中に於て恩藉獎
 勵し神が天に於て其の被選者の爲に備へたる永遠の幸福を受くるこ
 とを保證する神の善良の能力なり傲慢又は自愛憎惡嫉妬深き人豹變
 して溫柔謙遜と爲り神の光榮の爲め將た隣の幸福の爲め献身的と爲
 り衆人に對して善を望み寛大と爲り媚諂の念なくして謙讓的と爲れ

りとせば是れ恩寵の力に依りて斯く爲りしものなり。不信の者驕つて信者と爲り教規の熱心なる履行者と爲れりとせば是れ恩寵の力に依りて斯く爲りし者なり。守錢奴貪慾漢阿曲の徒貧者に對して殘酷無情の者心の奥底に變化を來して廉潔正義慈善深く惻愍の人と爲れりとせば是れ亦ハリストスの此恩寵の力に由るものなり。饜飶にして暴食爛飲する者病の故に依らず又は不節制の身体に取りて有害なる所以を悟りし爲にも非す乃ち豁然高尚なる徳義的目的を悟得して節制者と爲り守齋者と爲れりとせば是れ彼が恩寵の力に依りて斯く爲りしものなり。憎惡怨恨復讐を好む者が俄然化して仁者と爲り己の敵己に害を加ふる者己を罵詈する者をも愛する者と爲り何等の凌辱をも意

に介せざる者と爲れりとせば是れ彼は恩寵の更生變化更新する力に依りて斯く爲りしものなり。神に對し聖堂に對し奉神禮に對し概して我等の靈身を清淨堅固にする諸機密に對して冷淡なりし者俄然内心に變化を來たし神に對し奉神禮に對し祈禱に對して熱心と爲り機密を敬ふ者と爲れりとせんには是れ彼は神の救贖的恩寵の作用に依りて斯く爲りしものなり。乃ち知る恩寵の重要なる所以と其の己に取りて必要なる所以を知らず主の言に従ひ之を求むることを爲さずして恩寵以外に生活する者甚だ多きを主曰く「先づ神の國と其義とを求めよ」馬太六の三十三と豊富満足得々然として生活し健康の艶々しきを樂み揚々乎として飲食遊歩嬉戲し或は文筆を揮ひ或は人間の動作の

各方面に應じて労働するも神の恩寵即ちハリステアニンの價すべからざる財資にして之なくしてはハリステアニンが眞實のハリステアニンと爲り天國の眞實の嗣たるを得ざる神の恩寵を其心に有せざる者多し。

○今やハリステアニンには神學も文學も殆ど悉く俗世的のものと爲り福音及び神の律法は之を蔑視し聖人の傳記は之を嘲り概して人皆俗世的の事業にのみ醒醒として狂するが如くなるも神に悦ばるゝことと靈魂の救贖のことは殆ど之を念頭に懸くる者なし嗚呼憐むべき情態なる哉。

○試に基督教に於ける吾人の現時の情態を見よ自愛に溺れ名聞を求

め此世の快樂に耽り口腹の慾を縦にし利を貪り淫慾に溺るゝ等皆是れ偶像崇拜なり此の偶像崇拜こそ全然我等の目と我等の心とを神の在天の國より離して地に固着せしめたるものなれ此偶像崇拜こそ隣に對する愛を根絶し我等をして互に相敵せしむるものなれ嗚呼我等禍なる哉々々。

○吾人は我等に對する神の愛の至高の機密——基督教の機密を如何にして領くべきか智と心と行爲若くは我等の自由の意旨を以てすべきのみ我等の靈魂の此三能力は聖人の靈魂の如く果して聖なる信仰にて貫徹せらるゝか。神の國を何に譬へん是れ醉の如し婦之を取りて三斗の麴(靈魂の三能力)の中に納れしに悉く發酵するに至れり路加十

三の二十一)而も我等は今此の靈身の全力を盡して俗世的雲霧消滅的有罪的のもの(好色利慾好名)を領け在天永遠的のものを領くるに傾けざるなり。

○主神は謂はゞ己の無限の生命を我等に分け與へたるものなり即ち我等皆神性と合せられたる彼の至淨の肉と血を以て神化せられたるなり。我曰へり爾等神なり爾等皆至上者の子なり『聖詠八十一の六』天に在ます我等の父よされば我等も彼の旨に循ひ我等の靈身を支持するもの即ち己の智慧己の智識己の物質的所有物を以て我等の隣に分つべきに非ずや況んや主自ら我等に托せられて我等の増殖すべき「タラント」の減少せすして増加することを我等に約したるに於てをや何の

量を以てか人に量らば是くの如く爾等にも量られん(馬太七の二)若し夫れ神が我等を神性との交通己の肉と血との交通に受けたりとせんには我等も亦無爲懶惰坐食に安んぜすして凡てのものを共通にせざるべからず即ち富める者は我等が皆ハリストスに屬するものなるを記憶して須く貧者を助け及ぶ限り施濟を行ひ旅人を款待し病者を慰問し憂悲に沈める者を慰藉し無學無智の徒を薰陶し迷へる者を諭し侮辱を赦さざるべからず萬人の爲め萬物の爲にハリストスは報ひ給ふなり『蓋し我が飢えし時爾等我に食はせたり……』(馬太二十五の三十五)云々。

○十字架及び十字架の表號は神の能力なり故に主は常に之と偕にす。

主神母聖天使及び諸聖人等の聖像も亦是の如く、信者の爲に神の能力と爲りて彼等の上に奇跡を行ふ事を得、其故如何他なし、神の恩寵に依りて、主と女宰天使及び諸聖人は夫の聖像と偕にすればなり、即ち彼等は常に我等に近く、此等の聖像よりも近きが故なり、是れ眞實なり、實驗は最も屢々此事を確む。

○劇場は人々の心に何事を吹き込むか、此世の精神——遊佚空言贅言嬉笑狡猾詭詐の精神、傲慢尊大の精神を吹き込むのみにして、善良なる道徳の如きは何人にも寸毫も之を吹き込まざるなり、脚本の作者及び俳優は人民に其の自ら有する所のもの己の精神を傳ふるに外ならず、俳優輩豈に國民の道徳を思惟すと爲すか、彼等豈に國民の風教を矯正す

るの意ありと爲すか、否々斷じて之れあらざるなり。

○常に祈禱に於て主及び至淨の女宰生神女、若くは天使及び諸聖人と談話することを以て至大の幸福と思ひ、喜悅と敬虔より出づるの戰慄とを以て汝不潔にして、蠢爾たる蟲が果して誰と對談しつゝあるかを想ひ、常に彼等に祈禱せよ。

○我等の相互に捧ぐる熱心の祈禱は何故に他人の上に至大の効力を及ぼすか、他なし、我が祈禱の時に於て神に固着し、神と一神と爲り、我が代りて祈る所の人々をば己の信と愛とを以て己に合するが故なり、何となれば、我が衷に作用する神の神は満たさる所なき者として同時に彼等にも作用すればなり、『我等多くの者は一の體を成す』(哥林前十の

十七「體は一神は一なり……」(以弗四の四)

○吾人が神の殿に於て唱歌者の音調整々たる歌を聞き誦經者及び聖役者の明晰なる誦經に耳を傾くるに際して時々感覺する心裡の寧靜快感は是れ神の顔の言ひ盡させぬ善美を觀る者の永遠に感覺せんとする無限の快感の聘質なり唱歌の音調を整ふる事と誦經を明晰ならしめんことは熱心之を慮らざるべからず吾人は祈禱に於て神の諸聖人の名を唱ひつゝ之を以て彼等を我等の爲に祈禱することに強ゆるなり。

○我等は祈禱の爲に神の殿に詣るに當りて我等が在天の父の子にして彼の家に來るものたるを知り之を會得して子たるの熱誠なる愛と

感謝の情と燃ゆるが如き祈禱とを以て立たざるべからず我等の神は須く「アウワ父よと呼はさるべからず(羅馬八の十五参照)

○我が主よ爾は如何に仁慈にして如何に我等に近きや我等恒に爾と談話し爾に慰藉せられ爾にて呼吸し爾にて照らされ爾に於て和平を有ち爾に於て浩然の氣を養ひ得るほど爾かく爾は我等に近し主よ我をして爾及び私の隣に對して愛の質朴を有たしめよ然らば我常に爾と偕にし常に爾に於て和平を得ん主よ我をして憎惡驕傲嫉妬吝嗇貪婪口腹の慾狼狽の思想誹謗愛愁虚儀及び何等有罪のものをも最も厭ふべく最も憎むべき敵たる惡魔と一瞬間たりとも交接せしむる勿れ願はくは我は徹頭徹尾常に爾のものたらん。

○主イエスハリストス我が無限の快樂よ爾は我をして此の浮世に於て如何なる快樂をか味はしめざる。我が慈憐我が快樂よ我爾に感謝す。若し夫れ此世の快樂にして斯く多く且つ種々ありて快しとせんには在天屬神の快樂は夫れ果して如何にぞや。其快樂や實に無限無量にして想像すべからざるほど愉絶快樂なり。故に憐み深き鴻慈の主よ願はくは爾が爾を愛する者に備ひし所の爾の在天の快樂を我より奪ふ勿れ。願はくは爾の他の人々よりも之を奪ふ勿れ。願はくは主よ彼等をして悉く爾我等の快樂を識らしめよ。蓋し爾我等の快樂は到る處全地に在り即ち爾の事業は皆是れ快樂なり。然れども主よ我をして亦毅然として此世の憂悲患難をも甘受せしめよ。憂悲患難は我が情慾に溺

れたる肉體の爲め我が舊き人の爲に必要なり。仁慈の主よ爾の他の人をして亦毅然として患難を甘受するを得せしめ彼等をして其必要を悟らしめよ。『患難に遇ひて忍べ』(羅馬十二の十二)世に在りて爾等患難を受けん。『(約翰十六の三十三)』
 ○汝は他人に屬神的生活、信仰、智識を賜はんことを求む。是れ汝の誠心に出るか。僞善に非ざるか。獨り舌のみを以て求むるに非ざるか。汝は赤心彼等に此進歩を希望するか。汝果して自ら進歩するか。汝自ら慾に溺れざるか。猛省せよ。主宰は己の炯々たる目を以て万事見ざる所なし、須く心の單純と燃ゆるの神を以て主に求むべき所以を悟得せざるべからず。

○胃腸に種々の不潔物の満てる時汝は自ら快からざる心地せん而して此の状態にある時汝の祈禱が冷淡憂悶鬱々として失望の氣味を帯ぶるも失望する勿れ沮喪する勿れ蓋し主は汝の病的困難の状態を知るなり汝は須く荏弱と戦ひ力の有らん限り祈れよ然せば主は汝の身靈の荏弱を藐視せざらん。

○汝己を不淨不潔奸惡誹毀すべき罪人なりと感じ之が爲に女宰に近接し之に祈禱するを欲せざるかされど汝が己を斯かる罪人と認むればこそ熱誠に祈り罪惡の泥中に横臥せずして女宰に近づき彼女自ら此處に在りとの望を以て彼の聖像の前に立ち彼に己の罪の傷を耻づることなく打明けて諸罪に對する嫌惡の念を起し此の屬神的の癩疾

より汝を潔めんことを求めよ至善なる彼女は汝を蔑視せず至淨にして人に佑助を垂るゝ彼女は主が十人の癩者を潔めたるが如くに汝を潔めん。

○實行を以て慕なく消え去るべき肉體を蔑視して不死の靈魂の爲に焦慮すべきことを教ゆる如き眞實の「ハリスティアニン」は我何處に之を見出すべきか斯くの如く精神の高尙なる人は我何處に之を見出すべきか地上に生活する者の間には之を見出すこと困難なりと雖も假令斯くの如き人々のあること勿論なるべきも天に録されたる家子の教會希伯來十二の二十三在天の教會に於ては斯くの如き人々甚だ多くして天の星の如し彼等は己を以て舊き腐敗したる滅ぶべき人水を容

るゝに堪へざる破れたる器として己を捨て慕なく消え去るべき肉體
 と世界とを蔑視し己の十字架を取りてハリステスに従ひ己の生命を
 舉げて彼に捧げたり彼等は「人若し全世界を獲るとも己の靈を損は
 何の益かあらん」馬太十六の二十六と云ふの言を聴き而して肉體と世
 界は廢せられて無に歸するも我が靈魂が神の像として不死なるが故
 に貴く世界は廢さるべきものなるを以て全世界と雖も猶ほ靈魂と比
 すべきに非ざるを知れり蓋し救世主の言に天地は廢せん馬可十三の
 三十一と云へばなり且つ吾人は一舉手一投足毎に我が眼を以て世界
 の過ぎ去る所以を會得す蓋し世界に於ては萬物皆進行廻轉し五行皆
 運轉して止む時なく四季は恰も舞踏の環狀を爲しつゝ廻るが如く廻

轉し人間の此に生るゝあれば彼處に死するあり娶る者あれば妻を失
 ふ者あり一家の榮ゆるものあれば家屋財産を失ふ者あり修築繁榮す
 る市邑あれば火災に逢ふて灰燼に歸する町あり此地上のもの一とし
 て皆過ぎ去らざるなしされば地其物も應では過ぎ去らんこと疑ひな
 し若し夫れ家の内に在る物皆燃えたらんには家その物も焼かれん「天
 地は火の爲に護らる初の世は水に淹されて滅びたり然るに今の天地
 同じき言に由りて護らるゝものは火の爲に存せられて審判及び不敬
 虔の人の淪亡の日を待つなり」彼得後三の六七凡て此世のものは皆之
 を過ぎ去るべきものとして蔑視し全力を盡して不死の王なる神の旨
 に適はん事と己の靈魂の救贖の事を焦慮する眞實のハリステスアニン

は我何處に之を見出すべきか。王又は或る神の如く神の爲に(但し輕蔑の爲にせず)此世と此世の有らゆるものを蔑視し世上の凡ての慾と惡癖を以て斷然己の智慧又は神の律法に服せしむる如き高尚なる人は我何處に之を見出すべきか己の兄弟の救贖を慮り彼等の光照清潔其の信仰と善行に堅定せんことを慮る如き高尚なる人は我何處に之を見出すべきか。主よ爾は此世の燈臺に爾の教會の燈臺に斯かる燈を立て彼等をして爾の光榮を傳へ彼等をして爾の光榮と爾の民の救贖に就て熱心せしめよ。主よ爾は能はざる所なし。主よ此の世の虚空は何時まで我等を圍まんとするか我等をして何時まで爾我等の創造者且つ救主を離れしめんとするか。主よ爾の欲するが如く我等を慮れよ。

○主神及び神の母に祈禱する前或は祈禱する時に當りて他の傲慢憎惡の神が汝の心を攪亂する時は共に起ちて祈禱しつゝある者が皆是れ在天の全能至善無始無終なる者の諸子にして主が即ち彼等の父なるを明かに想起し此世の人々の嘲笑輕蔑憎惡は毫も之を意に介せずして勇ましく穩かに欣々然として自由に彼に祈れよ。人を羞ぢて詐はる勿れ疑ふことなく熱誠を以て在天の父に祈れ就中主禱は悠々として急かずに敬虔の心を以て之を誦せよ。要するに凡そ祈禱は汝が誰の前に之を誦しつゝあるかを辨へて敬虔の心を以て隠かに徐々と誦すべきなり。

○我神を信ずると揚言するも行を以て信せざるの「ハリステイア」ニ果

して幾何ぞ斯世の諸子の神及び其の諸聖人の光榮に向つて誹謗を加ふる時公衆に對して之を辨護するの必要あるに際し黙々として口を噤するもの幾許ぞ或は神の事の談話を繼續すべき時或は一種の無禮暴慢を制止するの必要あるに際して黙する者あり我神を信すと云ふも一たび不幸災難試誘に遭遇するや小心翼翼として憂悶措かず時として怨言する者多し信仰は何處に飛び去りしぞ斯かる時にこそ神の意志に服従を表して主は與へ主は取り給ふ主の名は崇め讃むべき哉』

(約百紀一の二十二)と云ふこそ必要なれ彼等は只幸福の時に於てのみ神を信じ不幸に際して之を斥くるものゝ如し。

○外科手術の困難と堪へ難き苦痛とを忍べよ然らば壯健と爲らん(告

解に就いて言ふ是れ告解に於ては假令心苦しく耻かしく不面目にして自ら卑下するの感あるも有らゆる醜行は毫も秘することなく悉く之を神父に告解すべきを言ふものなり若し然らざる場合に於ては傷痕は依然として愈されず心靈の健全を痛め腦まし腐蝕して他の心靈上の荏弱若くは有罪的習慣及び情慾を醸すの酵母と爲らん司祭は是れ屬神的醫師なり汝は耻つる事なく誠實淡泊に小兒の如き無邪氣なる信用を以て汝の傷痕を彼に示せよ司祭は汝の神父にして汝の肉身の父母よりも深く汝を愛し—蓋しハリストスの愛は肉身的自然的の愛よりも高尚なればなり—汝の爲に應答を與ふべき者に非ずや我等の生活が斯くも不潔と爲り情慾と有罪的習慣とに充つるに至りしは

抑々何故ぞ。是れ己の心靈上の傷痕を隠蔽する者甚だ多きが故にして
之が爲め其傷痕は益々痛み腫れ上りて之に何等の治療をも加ふるに
由なきに依るなり。

○主に造られ主に由りて存在し働作運轉する天地よ我夫の主と一神
たるの我をして豁然として悟る所あらしめよ。我は主と一神たり且つ
恒に之と一神たることを得るに於て我亦何をか悲しまんや。我が憂悲
は悉く之を主に委ぬ。天地は無魂無活動脆弱の物體なるも數千載主に
由り彼の能力と法則とに由りて存在す。草や野の花や木や魚鳥及び其
他のものは如何此等のものは皆我等に全く神の照管に己を委ぬべき
を教ゆるものに非ずして何ぞ。

○何人をも如何なる貧者たりとも藐視する勿れ乃ち凡そ善意ある人
に對し就中貧者に對しては憐憫すべき我が諸肢とし或は寧ろハリス
トスの諸肢として充分の尊敬と好意とを以て之を遇せよ。然らずんば
痛く己の靈魂を害はん。ア、單純なる愛に於て生活すること甚だ易き
が如く見えて而も愛に於て生活すること吾人の腐敗したる心に取り
て何ぞ其れ難きよ。一舉手一投足毎に隣に對して怨恨を懐かしむるの
口實あり。

○主よ視よ我は爾の器なり爾の聖神の賜を以て我に盈てよ。爾に依ら
ずしては諸善は我に空虚なり否。寧ろ諸罪に充滿する器なり。主よ是
れ爾の船なり。善行の荷を以て我に盈てよ。主よ是れ爾の約櫃なり。之に

盈つるに利慾淫慾の妖艶を以てせずして爾に對するの愛と爾の活像たる人間に對するの愛を以てせよ。

○人よ汝の本性はイエススハリストス——神人其の者に由りて何處に昇されたるか神の寶座に昇されたるなり汝の本性は神の母に依りて何處に昇されたるかヘルウム及びセラフムよりも高尙にせられたるなり是れ誰の爲めぞ他なし汝の爲めなり即ち汝をして情慾の腐敗より脱し神性に與かる者と爲らしめんが爲めなり汝は此の神の慮り此の神の事業此の主宰の至仁なる攝理に對して如何に答へんとするか。生命及び敬虔に益する神聖の能力は悉く汝に與へられたり汝は如何に之を利用せんとするか汝は此等の能力を蔑視するに非ずや汝は蝸

牛の如く全く地に粘着するに非ずや。

○我等の靈魂は神の像及び肖として單純なる實體なり故に靈魂整々として神の旨に適ひて生活する時は平和爽快喜悅なるも罪に傾き或は罪を行ひ或は敵より罪を行ふべく強迫せらるゝ時は不安暗昧懊惱たり。されば汝は斷えず神の旨を行へよ然せば汝は純撲平和ならん之に反して汝若し罪を犯さば汝は平和を有たざらん敵の壓迫に屈する勿れ彼は汝の心に入るゝに困憊懊惱暗黒と火とを以てす。汝の心より惡業を去れ。(以賽亞一の十六)

○空氣を呼吸することの自然にして爽快且つ容易なるが如く我が靈魂の呼吸たる聖神を以て呼吸することも自然にして容易且つ爽快な

らすんばあらず己れ自身を愛することの自然にして容易且つ爽快な
るが如く凡ての人を愛することも斯かく自然にして爽快且つ容易な
らすんばあらず蓋し我等は皆惟一の神の造物惟一の神の像と肖にし
て同一の呼吸一様の靈魂同一の形を有して皆一體なればなり。

○凡そ愛悲苦痛貪困疾病等は皆是れ人を蠱惑する罪を驅逐し内心に
眞實の徳を扶植せんが爲め罪の欺騙不禮無智暴虐及び死を來たすこ
と等を實驗的に會得して之を厭惡するの念を起さしめ併せて徳の眞
實温良淑智なる事とその人心を制するの温良なる事と施生的なる事
等を實驗的に會得せしめんが爲に神の許容し給ふ所のものなり故に
凡そ愛悲は毅然として我等の靈魂の醫師我が至仁の救者たる主に對

する感謝の念を懷きて之を忍ぶべし。

○主は到る處に在り萬事に在り主は一切を荷ひ一切を保護す故に全
能者と稱せらる我は愛ふる所あるべからず吾人は皆神の全能にて無
より有に呼び出されたり我等自らは微々たるものなるを以て神に由
らす己の力のみにては何事をも爲す能はず若くは己の生命をも支ふ
る能はず故に神は我等の爲めに一切にして我が生命なり我が能力な
り我が光なり我が空氣なり屬神的の糧及び飲物衣類及び一切なり彼
は我が物質的身體の爲にも萬物を造り且つ與ふ即ち光空氣温暖衣食
住等是なり常に己の微々取るに足らざると神の全能爲さる所なき
を悟れる心の貧しき者は福なり此世の生活上に愛を懷かざる者は福

なり質朴淡泊の者は福なり萬事に於て己を神に一任する者は福なり、
 『我等己の身及び互に悉くの我等の生命を以てハリストス神に委託せ
 ん』唯汝恒に神と共にせよ然らば一切のもの皆神に與へられ加へられ
 ん『先づ神の國を求めよ己にも又他人にも然らば此等の者皆汝等に加
 はらん』馬太六の三十三唯神をして汝等の心中に居らしめ彼と體合し
 て常に離れざれば然らば度世上に要するものは皆汝等に加はらん唯だ
 心を度世上の何事にも執着せしむる勿れ蓋し汝等の有すべきものは
 神—汝等の心中の神なり神は無盡藏の富滾々として永遠に盡きざる
 源なり凡そ神の在ます所には有らゆる幸福あり神を愛する者に有ら
 ゆる幸福の來ること影の形に従ふが如くならん。

○主が我に隣を愛すること己の如くせよと命じ或は主自身が我等を
 愛し給ひし如くせよと命せりとせんには我争でか隣に對して冷淡な
 るべけんや我等が隣に對して冷淡となるは情慾と自愛とに偏するが
 故なりされば我等は情慾と不節制とを放擲して主宰の旨に適ふこと
 を努めん。
 ○若し主あらず女宰あらず守護天使あらず諸聖人あるにあらずんば
 悪魔とその同族は我々衆人の口を塞ぎ我等をして主の名を讚榮する
 ことを得せしめざりしならん彼等が今猶ほ之を行はんとし且つ幾分
 か此點に成效することあるを以て見れば此くの如き事蓋し確かに行
 はれしならん聖務の時現に司祭を蹂躪する者は誰ぞ悪魔なり。

○我等皆一體なりとのことは造次顛沛にも之を忘れず互に相勵みて愛と善行とを行はざるべからず就中我等牧者たるものは之を服膺實行せざるべからず然り我等が靈にて光りて堅く信仰と敬虔に立たば我が牧群も亦其生活最も堅固に最も光明に最も清潔とならん若し首光らば諸肢も亦光らん之に反して我等の靈魂が種々の情慾に由りて昏まされなば教會の體たる我が牧群も暗昧とならん首と諸肢の間牧者と牧群との間には密接の連絡ありて存すればなり故に主曰く斯くの如く爾等の光は人々の前に照るべし彼等が爾等の善き行を見て天に在ます爾等の父を讚榮せん爲めなり『馬太五の十六』若し爾の中の光は暗みたらば則ち暗は如何にぞや『馬太六の二十三』汝豈に汝が食を嗜むの慾汝の貪慾は汝の牧群に影響せざるべしと思ふか第一汝が靈魂のことを慮らざるよりして悪影響を及ぼさざるべしと思ふか蓋し金錢に熱中する者は靈魂に就て何の慮る所かあらん全く是れ無きなり然り牧者の光若し暗みたらば牧者と牧群と首と諸肢との間に密接の關係ある故に因りて牧群にも其光亦必ず暗まん汝堅く心靈上の徳を守れよ然らば彼等も堅固とならん祈禱に立ちて彼等の爲に熱切に祈れよ然らば彼等も之を感じん汝精神的に毅々乎たれ然らば彼等も毅然たらん汝薄弱ならんか彼等も亦薄弱とならん主よ我を憐めよ。

○我等の身體は光溫暖空氣水及び土の地的元素より成りて身體の死後亦此等の元素に分化せらる光と溫暖とは光と溫氣とに合し空氣は

空氣と合し水は水と土は土と合す即ち我等は組織せられて又解體せらるゝものなり主よ爾の造化力に光榮を歸す我等須く己の土なる事暫時にして消え行くものなる事を領會記憶して造物主の前に畏み處しまん我等は皆彼の手の業彼の草苑の羊なり『聖詠九十九の三』

○我等の生涯は神の言ひ盡されぬ慈憐の絶えざる流なり故に我等の生涯は神造物主恩者に對する不斷の感謝と讚美たらざるべからず就中神及び彼の像と我が同肢たる隣に對する不斷の愛たらざるべからず吾人は隣を愛しつゝ神を愛し衆人を敬ひつゝ神の像と神その者及び己を敬ふものなり蓋し隣とは是れ他の第五番目第十番目第百第千第百萬番目の人にして次で我なり樹の葉多しといへども皆是れ一の樹なり

り彼等は一様の生活を爲し其本原同一にして其形狀亦同一其始同じく其終亦相同じ。

○若し汝が其前に立ちて祈禱する處の神の母の聖像が聖にせられたるや否を疑はゞ原像の女宰其人自ら既に千九百年前其の兩親イオアキム及びアンナの胎中に於て聖にせられ次で誕生の後亦イエルサリムの殿に於て聖にせられ遂に彼れより神言の奥妙に藉身したるに由りて聖にせられたるを思へ彼女は常に聖にして永遠に不變不易に至聖なり彼女は到る處にあり己の凡ての聖像に實在し單に彼の像を畫き其名を記し或は救主の像と其名を畫く時既に自己の像と其名を畫くことにて其物を聖にするなり凡そ聖像を仰ぎ視るには質樸の心を

以てせよ懷疑は是れ熱切なる祈禱より心を奪はんとする悪魔より來るものなり汝は彼に向つて曰へ全地は聖なり我が主及び彼の至聖なる母—全世界の女宰の主權は到る處にあり我は心の目を以て至聖なる彼の女を仰ぎ視るものにして板に叩拜するにあらず像は唯我が在弱を助くるものとして作られたるのみと。

○神の母及び其他の諸聖人の奇跡を行ふの聖像は我等をして凡そ聖像を仰ぎ視ること猶ほ我等が祈る所の聖人其人に對するが如く活きて我等と對談する人に對するが如くすべきを教ゆるなり蓋し我等苟も信仰と熱切なる心とを以て彼等に祈らんには彼等は我等に近く聖像よりも尙ほ我等に近し生命を施すの十字架に就ても斯く言はざる

べからず凡そ十字架或は十字架の表號のあらん處にはハリストス及び彼の能力彼の救贖あり汝は唯須く信仰を以て十字架を畫き又は之に叩拜せよ。

○汝が讀み慣れたる所の知れる祈禱文に依りて神に祈る時内心に曰へ主よ爾は常に同一なり我が心は渝りて祈禱の言に對し冷淡になることありされど祈禱の効力は爾が永遠に同一なるが如く同一なりと。○汝は神に祈るに方りて面のあたり彼と談話するものなり汝は主と面のあたり對話するが如くにして彼と談話し在天の女王たる母とは恰も生きたる其人に對するが如く天使及び諸聖人とも面のあたり對話するが如くにして談話せよ而して此時に於ては決して心を他事に

役する勿れ何物にも附着する勿れ蓋し汝は王若くは女王と對話するに當りて他の微々たる事に思を馳せ例へば窓より通行人を眺め若くは其室内に在る物品などに目を注ぐ等の事を爲すか是れ國王の尊嚴に對して甚しき侮辱にあらずや吾人豈に主と對話するに當りて是くの如き事否な之れよりも更に惡しき事を爲すべけんや。

○憂悲は良師なり憂悲は我等に示すに我等の荏弱情慾及び痛悔の必要を以てす憂悲は靈魂を淨め恰も宿醉より醒ますものゝ如く靈魂を醒まし靈魂に恩寵を降し心を和らげ罪を厭ふの念を起さしめ信仰と希望と徳とに固たむるなり。

○物質は吾人心にて之に執着し熱心に之を望み又は他人に之を與ふ

るを惜む時は生命の源たる神より遠ざくるを以て靈魂を殺すなり心は常は屬神的及び物質的生命の無盡藏の源たる神に在らしむべし蓋し天下の造物の實在有機的植物的動物的生命の本原整々たる秩序及び大小諸世界の生命の本原は果して誰ぞ主神是なり凡そ物質的のものには價値なきもの微々たるもの過ぎ去るもの朽つるもの敗壞すべきもの消え失すべきものとして塵芥と見做し而して無形單純不死にして敗壞すること能はざる靈魂に意を注ぐべし『肉體を輕んせよ蓋しそは消え行かん只不死のものたる靈魂の事を慮れよ克肖者讚詞汝事實を以て之を證せよ即ち齋みせよ悦んで貧者に施せ快く客に饗應せよ家人に何物をも惜む勿れ熱心に神の言を讀め祈禱せよ悔改せよ己の

罪の爲に泣け全力を盡して成聖温良謙遜忍耐從順を事とせよ。

○我等は神靈世界在天の教會と如何にして關係を保つべきか祈禱に於て彼等を呼ぶを以てし彼等を榮するが爲めに設けたる祭及び教會の奉事を以てす蓋し教會は惟一の首ハリストスの下に在りて惟一なればなり死者とは如何にして關係を有つべきか彼等の爲に捧ぐる祈禱中無血祭の奉獻と合せられたる祈禱を以てす生けるハリストスアニン及び衆人とは如何にして關係を保つべきか是れ亦神の聖堂及び家に於て彼等衆人の爲に捧ぐる祈禱を以てす夫れ是くの如くにして我等は在天在地及び地下の諸族と關係を保つ偉なる哉ハリストス教や。

○實際世界に於て一面には物質的事物有生無生の造物は無限に目に觸れ而して一面には思想感情の内部の世界若くは有罪的の無意味無感覺或は有罪情慾的思想と感情は無限に多し然れども凡そ物質的のものは皆取るに足らず唯人の唯一の善良の思想惟一の聖なる愛の感情は一切の物質よりも無限に貴重なり。

○傷心して罪を主に告解したれば諸罪則ち溶解し嘆息して罪を悔いたれば諸罪則ち失せたり『汝の不法を告げよ然らば義とせられん』來るが如くにして又去らん妄想は妄想に外ならず一たび事の妄想無稽無智たるを悟り以後己を正しく處せんと決心したれば神は己の役者及び聖機密を以て之を清めたり。

○ハリストスは生命を賜ふ者とし完全なる神とし造物主とし我の照管者配慮者及び救主として我が爲め我が生活の完全の爲に全く充分にして我が非物質的なる心の爲には何等の事物も不必要なり此等の事物は唯だ朽つべき消え去るべき身體に取りて必要なるも身體は凡そ必要なるものを日々通例神の仁慈とその鴻恩に由りて之を有す。肉體或は舊き人の慾望は無數なれども此等は皆是れ妄想幻像虚無のみ。此等は皆是れ精神の昏昧眩暈煩腦のみ。我が安慰我が生命は唯一の神に在り。

○在天と在地の教會の關係は如何に密接なるよ教會の愛は如何に深きよ。看よ彼は此世に在りて盡したる功勞の爲め神に引上げられたる

在天の教會を斷えず記憶して祈禱に於て呼び且つ稱讚す彼は斷えず地上の教會の爲に祈り又復活永生及び神と諸聖人との交通を得るの望を懷きて死せし者の爲に代求す。嗚呼是れ何等無量の愛偉大神聖の愛ぞ。吾人は須く此の母たる我が正教會の愛の精神を悟得し此の愛の精神にて貫徹されん。吾人は凡そ隣を己の支肢と見做し己及び彼等を教會の一體の支肢と見做し勉めて彼等を愛すること己の如くせん。然らば我々自身は在天の教會の活ける會員とならん而して在天の教會は速かに我等の祈禱を聴き容るゝ有力なる補助者我等の靈魂の爲めの祈禱者とならん。

○我等が肉體的の生活に耽り熱心に神に近つかざる間は惡鬼は飲食

を嗜むの慾淫亂驕傲信仰教會及び正教の定理等に關する傲慢なる自由思想憎惡嫉妬吝嗇利慾等の諸慾の許に潜みて我等の裡に隠る然れども吾人が誠實に神に事へんと決心し且つ我等の裡に巢窟を構ふる我等の諸慾の惡鬼を凌辱する時は彼等は地獄的の有らゆる憎惡と種々の恐るべき威嚇と此世の幸福に對する執着心とを以て我等に反抗し熱切の祈禱若くは領聖を以て之を驅逐するにあらざれば止まず例へば患鬼者の如き之れを領聖に導き來らざる間は穩かなるも之に近づくや非常の力を現はし聖物を嫌惡し之を誹り之に唾して悲鳴を擧ぐるに至る是れ夫の患鬼者若くは癲癩者が聖堂に於て聖體禮儀執行の時又は彼等を不朽體に接近せしむる時悲鳴を擧ぐる所以にして汝

等の疑を解くものなり是れ蓋し患鬼者が常に己を焚燒壓迫打撃し彼等を其の愛する所の住所より放逐せんとする強くして憎らしき善力に遭遇するが故なり。

○各ハリステイアニンの家そのものは無限に大なる家—主の住み給ふ全世界天地を象どるものなり故に各ハリステイアニンの家には其家に住みて救主及び神の母に趨り向ふ人々の祈禱を聴き給ふ救主及び神の母の聖なる像あるを見ん。

○人は須く己の靈性上の不幸を知り熱心常に救主に祈りて其不幸より汝を救はんことを求むべし。曰ふ勿れ我は危険に際せず我は不幸に瀕せず我は我の遭遇せず我の知らざる不幸より避けんことを屢々祈

り求むるの必要なしと汝が至大なる不幸の裡にありながら己の不幸を知らざるものは是れ不幸なりこの不幸は汝の罪是れなり。

○汝若し非常の災厄憂悲疾病等に際會することあるも決して落膽する勿れ憂ふる勿れ泣く勿れ死を願ふ勿れ見ざる所なき神の前に妄言を吐き例へばア、何たる残酷なる憂悲ぞア、何たる災厄ぞ我之を忍ぶに堪へず我寧ろ死するに如かずと云ひ或は我寧ろ自殺せんなど言ふ勿れ願はくは神汝をして斯かる落膽憤怨狂妄より避けしめんことを乃ち此等のものは皆汝の罪の爲に神より汝に遣はされたるものとして毅然として之を忍び彼の賢き盜賊と共に我に在りては當然なり我が行に稱へることを受くればなり』路加三十三の四十一』との言を繰

返し心の目を以て十字架上に苦める救主を仰ぎ視よ。

○汝慎みて内心の滔々たる憂悲災厄の河をして汝を主イエイススハリストスより隔離せざらしめよ蓋し敵は有らゆる手段を盡し或は快樂を以て或はイオフに對せし如く忍び難き災厄を以て就中内心の懊惱憂悲を以て汝を主より引離さんと勉むればなり汝は須く神に感謝しつゝ萬事を忍べよ蓋し神を愛する者には凡その事彼等を輔けて善に進ましむればなり』羅馬八の二十八』汝は自ら日々神に奉るの祈禱に於て告白する所を記憶し汝が己の罪に依りて恒に神及び彼の至淨の母并に凡ての天の能力と聖なる守護天使を怒らしむるを以て彼の仁愛を受くるに堪へず却つて罪定苦痛を受くること當然なるを以て主は

汝に己の公義と共に己の愛を現はし汝をして憂悲痛苦に遭遇し侮蔑汚辱を受けしめ汝をして己の心を浄め之を和らげ之を謙遜ならしめて神の殿たるに適ふものと爲さんとするものを記憶せよ蓋し主は其愛するものを懲らし凡そ納るゝ所の子を鞭つ凡の懲戒は今喜に非ずして悲なりと意はる然れども後には之に由りて練達せし者に義の平安なる果を結ばしむるなり』希伯來十二の六十一

○汝の意に由らざる罪は汝に責任なし例へば祈禱に於ける不意の躓き猥褻誹謗的の思慮吾人の熱心に排せんとする不本意の憎悪及び吾人の常に斥ぞくる吝嗇等是なり此等は皆是れ悪鬼の襲撃なり此際吾人は只忍耐祈禱謙遜相愛すべきのみ。

○ア、我等の主イエススハリストスの名は至美なる名なる哉至聖なる名なる哉全能なる名なる哉主我が勝利よ爾に光榮を歸す主よ我等は爾の諸肢我等は一體にして爾は我等の首なり主よ願はくは諸慾をして我等より避け悪魔をして我等より逃れしめよ主よ我等に賜に永く墮ちざる愛の恩寵を以てせよ主よ我等は爾に由り肖神せられたる者として互に尊敬相愛すること爾自身に對するが如くせん。

○主よ爾に選ばれし者は天に於て爾と偕にして如何に幸福なるよ此世の快樂は皆如何に心を疲勞せしむるよ瞬時たりとも此世の事物に執着することは心に取りて如何に有害なるよ只夫れ爾に於ては何等の平和何等の自由何等の廣濶何等の光明何等の喜悅あるよ

○主よ爾の決して衰弱することなき十字架の力に光榮を歸す敵が有罪の思想感情を以て我を壓迫し我心中に餘裕なき時信仰を以て十字架の表號を畫くこと數回に及べば俄然我が罪は我より離れ去り懊惱たる念消え失せて我は自由を感ず主よ爾に光榮を歸す主よ願はくは何等肉體的のもの物質的のものたりとも我をして爾より離れしむる勿れ我は常に爾と偕にせん爾と偕にすること如何に幸福なるよ。

○主よ我より爾の在天の幸福を奪ふ勿れ蓋し主よ爾若し欲せば之を爲すを得べし主よ我をして永苦を脱せしめよ蓋し爾若し欲せば之れをも亦容易に爲すを得べし主よ我は心にて或は意思にて言にて或は行にて犯せし所の罪あり願はくは我が靈魂の荏弱を顧みて我を救せ

主よ爾は我悔改して爾の幸福を求むる者の爲に何事をも爲すを得べし又爾諸天使と人間の女宰至仁にして能く人を助くる者は凡ての敵の力に對し儼然として命令を下し其火焰を掃蕩するの權あり迅雷耳を掩ふに違あらざる勢を以て惡鬼の種々多端なる奸計を容易に撃破するを得る者として我等を諸罪より救ひ爾の能力にて我等を諸徳に堅め我等を爾の子我等の神及び爾至聖童女我が主の母に適ふ者と爲せ蓋し我等は爾の子ハリストスの諸肢として其名を冠すればなり。願はくは我等の「ハリステアニン」たる名稱は空音とならず無勢力のものとならずして我等皆我等の信の首希伯來十二の二たるハリストスと爾無形の造物の首(生神女讚詞)に則る者と爲らん。願はくは我等皆活

ける石の如く、屬神の堂聖なる司祭班と爲りて神の悦び納るゝ祭を獻げん。彼得前二の五參看ア、女宰よ女宰よ我等が爾を女宰と稱ふるは偶然に非ず徒爾に非ず願はくは爾の神聖活潑有爲の女宰たる權を常に我に現はし給へ萬事を化して善と爲すを得る者至仁なる王の至慈なる母として其權を現はし我が心の暗黒を散じ諂諛的に我に向くる惡神の箭を反撥へよ。願はくは爾の子の平和爾の平和は我等の心になりて皆常に欣々然として主の次は至仁至慈我等に佑助を垂れ速に我等を保護する我が女宰に非ずして誰ぞと呼ばしめよ。女宰よ爾の高められたる所以爾に得て言ふべからざる神恩を豊かに賜はりたる所以神の寶座に近づくの言ふべからざる勇みと力全能の祈禱の賜の

爾に與へられたる所以形容すべからざる神聖と清潔とを以て爾の飾られたる所以主より無比の能力の爾に與へられたる所以のものは爾をして爾の子神及び爾の嗣たる我等を守護し辨護し清め且つ救はしめんが爲なり。ア、至淨至仁睿智にして能く人を助くる者よ我等を救ひ給へ。蓋し爾は諸の名の中より首として好んで救世主の稱を冠し給へる我等の救主の母なればなり。彼れの名其者もイイスス即ち救世主なり。我等此世に旅行する者は多慾の肉體に包まれ罪に誘惑する天の下の惡鬼に圍繞せられ姦惡有罪の世に住するを以て墮落すること當然なるも爾は諸罪の上に超然とし爾は明煌々たる太陽爾は至淨至仁人を助くる力あるを以て我等苟も謙遜にして爾に助を求めば罪にて

汚れたる我等を潔むること猶ほ母の其子を潔むるが如くすること爾の任なり断えず墮落する我等を興し悪鬼に讒せらるゝ我等を辯護し保護し救贖し我等に救贖の道に由りて歩むことを諭すは是れ爾の任なり。

○主曰く『我は葡萄の樹爾等は枝なり』約翰十五の五即ち教會は惟一の聖なる公なる使徒の教會なり故に主の聖なるが如く教會も聖なり主は道なり眞實なり生命(約翰十四の六)なるが如く教會も亦然り何となれば教會は主と同一彼の體にして彼の肉よりし彼の骨よりす(以弗五の三十)或は彼—活ける葡萄の樹に植付けられて彼に養はれ彼に於て生長する彼の枝なり教會は決して之を主イエスハリストスより父

及び聖神より分離して想像する勿れ。

○敵が救主の或言に就きて汝の心に疑を起さしめ汝を傷けんとする時は内心にて彼に曰へ我が神イエスハリストスの一言一句皆我が爲に生命なりと然るときは懷疑の毒は心中より驅逐せられ靈魂は平穩輕快と爲らん教會の或る言或は文句行爲儀式等に就て疑の萌す時は復た内心教會のことに關する救主の言を以て之に云へ曰く『彼即ち眞實の神來らん時爾等即ち使徒にて扶植擴張せられたる教會就中牧者教師等を凡その眞實に導かん』約翰十六の十三又十四の廿六参照)と而して主の許約に依りて聖神の教會に永遠に存して之を凡その眞實に導かんとするを確信せよ是れ則ち凡そ彼に在る所のものは眞實救

贖的のものたること明にして彼が『眞實の柱及び固め』と稱せらるゝもの之が爲めなり提摩前三の十五教會の諸書教會諸師父の著述に於ては到る處にハリストスの神眞實と愛と救の神躍々如たり。

○祈禱は是れ己の靈魂の貧しきと弱きとを常に感覺し己と他人と自然界とに神の睿智仁慈及び全能力の事業の現はるゝを想察するものなり祈禱は是れ常に感謝的の意嚮なり。

○全く祈禱に非ざるものを祈禱と稱すること往々之れあり例へば聖堂に來り立ちて聖像を仰ぎ見或は他人を見その容貌服裝等を見て我れ神に祈禱せりと云ふ者あり或は家に於て聖像の前に立ち首を垂れ意味を解せず同感の情なくして徒らに習ひたる文句を唱ふるに止ま

り思想と心とを以ては全く祈禱せず其心は他の或る場所に在りて他人と接し他の事物に齟齬として神と共にせざるも我れ神に祈禱せりと言ふ者あり。

○祈禱は是れ智と心とを神に向け揚ぐること神を冥想すること受造物が造物主と勇ましく談話すること王及び萬物に生命を與ふる生命其者に對するが如く彼の前に恭しく靈魂にて立つこと神の爲に我等を圍繞する萬事を忘るゝことなり靈魂の糧食なり空氣及び光なり之が施生的溫氣なり罪の洗淨なりハリストスの易き軌なり彼の輕き任なり祈禱は是れ己の荏弱若くは心の貧しきことを常に感覺意識することなり靈魂の成聖なり未來の幸福の豫覺なり天使的の幸福なり靈

魂の地を新鮮にし之を濕ふし之を豊饒ならしむる天の雨なり靈身の能力なり精神的空氣の新鮮及び潔めなり面の光照なり靈の快樂なり受造物を造物主と連結する金の鎖なり生活の凡ての憂悲試誘に對する警醒及び勇氣なり生命の燈なり事業に於ける成功なり天使同格の位なり信望愛の固めなり祈禱は永遠より神の悦を得たる諸天使諸聖人との交通なり祈禱は品行の矯正なり熱切なる痛心と熱涙の母なり慈善の事業に對する強き奨勵なり生命の安全なり死の恐怖の絶滅なり此世の財寶の輕蔑なり天上の幸福の希望なり全世界の審判者公衆の復活及び來世の生命の切望なり永遠の苦痛より避けんとする熱切の盡力なり主宰に對する矜恤慈悲の不斷の求めなり神の目前に於け

る歩みなり萬物を造り萬物に盈つる造物主の前に於ける幸福的自滅なり靈魂の活水なり祈禱は凡の人々の心中に愛にて入込むことなり靈魂に天を引下すことなり『我等彼に來りて彼に住居を爲さん』約翰十
 四の二十三と云へる言に循ひて心に至聖三者を宿らしむることなり。
 ○汝の思想の汝に近く信仰の汝の心に近きが如く斯く神は汝に近し神を思ふの念益々躍如として且つ堅く信仰と己の荏弱微々たるを識認すること并に神を恃むの必要を感ずること益々深ければ深きだけ神も益々汝に近し或は空氣の身體に近きが如く神は靈魂に近し蓋し神は謂はゞ諸天使諸聖人及び生ける人々の靈魂就中敬虔なる人々の靈魂の呼吸する無形的の空氣なり汝は一瞬時たりとも神なくして生

活すること能はず實際一瞬一刻彼に依りて生活するなり『蓋我等は彼に頼りて生き且動き且つ存す』行實十七の二十八

○汝が某の場所某の時に神の存在するや否に就て疑を挿み之に由りて靈魂に生ずる所の苦痛は則ち我等が瞬時も何處に於ても神無くして存在する能はず何れの時何れの場所に於ても我等惟神に依りてのみ生活するを證するものたり即ち懷疑なるものは偶々以て神の隨在存在するの眞理と我等が他の造物の如く神なくしては何處にも存在すること能はざる所以を消極的に確證するものたるに外ならず實際汝何處に在るに拘らず若し神の存在を疑ひ汝は懊惱として心中に火の臨みたる如き感を爲さば懷疑に屈服せらるゝ勿れ乃ち之を以て惡

魔の豔惑妄想と見做せよ然らば汝の心立どころに輕快と爲らん神が我が靈魂の如く無形屬神的の者にして我等が意思と心とを以て或は神に近づきて彼と一神と爲り或は彼より遠ざかりて惡魔と一神と爲り惡魔に助くる力と爲らんとすることは常に之を思はざるべからず。○凡そハリスティアンは須く此世の諸般の腐敗すべき事物に潛み種々の体裁好き口實を以て我等を隣を愛すること己を愛するが如くするの愛より遠ざけんとする惡魔の誑諛を看破せよ。○聖像は我が本性の要求する所なり我等の本性形像無くして満足するを得るか不在の人は之を像らずして想起するを得るか神豈自ら我等に像ることの能力を與へたるに非ずや聖像は是れ教會が我等の本

性の需要の焦眉の急務に應ずるものなり。
 ○祈禱する者よ主或は神の母或は天使或は聖人の名は汝に取りて主神の母天使或は聖人其者の代りと爲るべし汝の言の汝の心に近き所以のものは是れ主至聖童女天使或は聖人其者の汝の心に近き聴質及び表示と爲るべし主の名は是れ在らざる所なく満たざる所なき神たる主其者なり神の母の名は神の母其者天使の名は則ち天使聖人の名は則ち聖人なり如何にして然るや汝豈に此理を解せざるか請ふ之を語らん假に汝をイワンイイチと呼ぶとせんに人若し此名を以て汝を呼びたらんには汝は其名に已れ全體を認めて之に應對せん是れ即ち汝が汝の名を以て靈魂と肉體とを具備する汝自身なりと承認するも

のなり聖人も亦然り汝彼等の名を呼ぶは即ち彼等自身を呼ぶものなり汝或は曰はん然れども彼等には肉體なしと肉體なしとて何かあらん肉體は唯靈魂の物質的被覆たり其家たるのみにして人其者の實體若くは内部の人は即ち靈魂なり汝の名を指して呼ぶ時にも汝の肉體は呼ばるゝに非ずして汝の靈魂が肉體の機關を以て呼ばるゝものなり夫れ然り神及び聖人の名は神及び神の聖人其者なり然れども神は純乎たる在らざる所なき神にして聖人は皆神に宿るものなるに依り信仰の祈禱を以て諸聖人と交際することは最も便宜にして吾人と共に住するの人々と交際するよりも易し何となれば人々と交際するに當りては時として舌なきことあり又は我等の談話の誹毀せられん

ことを恐れて言ふを憚ることありと雖も彼處に於ては信じて愛する者の心より出づる單純にして人爲的ならざる聲を聞き舌の啞なるをも解し舌なくも靈魂と其情態と希望とを見るなり。

○聖像の聖堂及び家庭に必要な所以は一には聖像が我等をして諸聖人の不死の事を記憶せしめ、主の言ふが如く彼等が生きて(路加二十の卅八)神に於て我等を見、我等の言を聴き、我等を助くる事を記憶せしむるが爲なり。

○我等の神の名は何ぞ曰く愛曰く仁慈曰く慈憐曰く鴻恩是なり汝祈禱する時は須く心の目を以て愛及び仁慈の汝の前に立つを見慈憐者の汝に傾聴するを見よ。

○在天の諸能力に祈禱する時は彼等を以て恐るべきもの近づくべからざるもの無慈悲のものと思ふ勿れ否な彼等は温良謙讓敬虔なるもの愛するもの、近づき易きもの、交際好きなるものにして苟も己の祈禱に於て熱切の信仰と愛とを以て呼ぶ者に對しては能く聴き容るゝ者、近き者なり。彼等の特性は信仰の祈禱に由りて、凡てのハリステイアーンと一體と爲らんとするの愛なり。加之在天の諸能力に祈禱する時には凡そ此世のものをば敗壞すべきものとして藐視し、全心を以て在天屬神的の生命を愛して之に突進せよ。我等が彼等の同國民たらんとする我等の眞の智慧、我等の希望を見るは、彼等の最も快とする所なり。至聖三者に於けるイエススハリストスの恩寵に依りて我等の召されたる

所以のもの亦實に此に在り。

○主よ見えす端倪すべからざるの主永遠に生命光明平和喜悅能力忍耐を以て我が心を充す者我豈に爾を忘れんや我が生涯我が爲めに一切の幸福にして獨り我が生命たる者我豈に爾を忘れんやア、主よ我をして爾を忘れしむる勿れ。

○主よ爾の名は愛なり我れ迷へる者を斥くる勿れ爾の名は能力なり困憊墮落せる我を堅めよ爾の名は光なり浮世の諸慾にて昏まされし我が靈魂を照らせよ爾の名は平和なり我が擾々たる靈魂を鎮靜せよ。爾の名は慈憐なり我を憐む事を止むる勿れ。

○予は時として聖堂に於て神の人々の爲に左の如く祈ることあり視

よ今爾の殿に立ち居る者の中多くは空器の如く己の靈魂を空虚にして立ち其の祈るべき所のことを知らず爾今願はくは彼等に取りて此の好都合なる時此の救の日に於て汝の至聖の神の恩寵を以て彼等の心を充たし彼等をして汝の仁慈を認めて恰も充たされたる器の如く心の悔悟と感動とを以て充されたる者として我に我が愛我が祈禱に賜へよ願はくは自ら言ふべからざる嘆息を以て彼等の爲めに求むる汝の聖神(羅馬八の二十六)を彼等に與へよ我れ牧者は自ら何人よりも罪深き者不潔なる者なりされど主宰よ汝我が罪を見ず乃ち汝の大なる慈憐に依りて之を赦し我が裡に存する神品職の恩寵に因りて今我が祈禱を聴き容れよ主よ願はくは神品職の恩寵は我に徒爾と爲らず乃

ち信望愛と神の人々の爲に祈禱する子たるの勇みとを以て恒に我が
裡に燃えんことを。

○主宰よ我が属神的の諸子及び爾に悦ばるゝ正教の「ハリステイア」ニ
等の爲めにする我が熱涙の祈禱を我が彼等の救の爲めの慮とし我が
牧師たる焦慮として受けよ願はくは爾自ら我が祈禱に依りて彼等の
爲めに罪の睡眠より醒すの聲と爲り菰と爲り彼等の心を監視するの
目と爲り在天の本國に至るの道に彼等を固め弱信怯懦憂悲の爲めに
墮落する者を起すの手と爲り又彼等の眞實の幸福を慮る慈母的愛
—我に乏しき—愛と爲り給へ「凡その人の爲めには凡その者と爲れり、
凡その法を以て或人々を救はん爲めなり」(哥林前九の二十二)蓋し爾は

獨り眞實の牧者にして隱微に冥々裡に人の靈魂を牧する者なり爾は
爾の人々の心に直接語る所の唯一眞實啟智の師なり爾は獨り恩寵に
因る己の造物及び子を眞實に愛する者なり啟智も全能も爾に在りて
無量なり爾は獨り常に徹醒寢ねざる者且つ睡眠の中に於ても我等を
爾の道に教ふる者なり故に主宰よ爾は我に代りて爾より我に託せら
れたる爾の羊の牧者たれ教師たれ自ら彼等を導きて豊饒なる牧場に
入れよ自ら彼等を身靈兩界の狼より守れよ自ら彼等の足を眞理と公
義と平和の途に向はしめよ願はくは我に代りて彼等の爲めに光とも
爲り眼とも爲り口とも手とも啟智とも爲れよ就中此の罪多き我に乏
しき所の愛と爲れよ。

○神は一切の幸福、全知、容知、全能、恩寵及び慈憐、公義、淹らざる善の深淵なり。然れども、信仰の祈禱と愛の行を以て、主に附く者は主と一神と爲る。『哥林前六の十七』に依り、彼も己の信仰と愛の程度に従ひ、智慧と屬神的能力に充たされ、彼れ眞實の仁者より、凡そ救贖に益するものを受け、自ら仁慈と爲り、他人に對して同情深きものと爲り、屬神的智識に充たされ、信仰及び德行に對して堅忍不拔と爲るに至らん。神は永遠に流るゝ泉なるが故に、彼より屬神的諸般の幸福を得んが爲めには、我等唯だ活ける信仰と、僞善ならざる愛とを以て、彼と體合すべきのみ。苟も我が心にして、悪魔と偕にせず、世の空虚と偕にせずして、恒に唯だ神と共に在らんには、此の體合は、孰れの場所に於ても、常に出來得る事なり。是

れ吾人が義人の間に、先見者、預言者、神の全能、愛及び慈憐の奇跡を行ふ者、信仰の爲め、神に對する愛の爲めに、致命を爲すに至るまで、徳を守りて、堅固不拔なる者、屬神的智識に充てる聖人——彼等の主神は聖なればなり。『聖詠九十八の九』——を見る所以なり。

○若し汝の心と思想が、公教會の信仰と神の誠命とに一致せば、汝は必ずや神と密接なる連結と親和とを有せん。蓋し神は屬神的、心性的、人格的の者なればなり。されど若し汝の心と汝の思考が、故意的に公教會の信仰に背戾するか、ハリステイアニンの生活の法規を律する神の誠命或は福音の言に背戾することあらば、汝の神との體合は破れて、汝の心は眞理と生命の敵たる悪魔と、致命的連結を成すに至るなり。外部の空氣

と接せざる室内の室氣が腐壞して生活の爲めに無用有害なる多くの元素に充され己の施生的要素を失ふが如く、故意的の孤疑、不信、不法に依りて神より離れたる靈魂も亦己の施生的要素を失ひ、唯だ物體的劣等の生命を以て生活するのみ空氣を新鮮にし、施生的要素を以て之を充たさんが爲には室内に外部の空氣を入るゝことの必要なるが如く、靈魂——此の我が肉身の殿に閉ぢ込められたる空氣の如きにも信と愛とを以て施生的呼吸若くは神の神の風を流通すること必要なり、然る時は靈魂は其度毎に生々活潑と爲り、信と愛との爲めに新なる力を受けん。聖教會の歌に曰く『凡その靈魂は聖神に由りて生く』(偈和詞第四章)と。蓋し人とは是れ神の呼吸或は神の像と肖とに依れる靈魂にて充

されたる玻璃器の如きものに非ずして何ぞ。此の玻璃器には空氣を換ゆること必要なり。況んや生來罪の最初の原因者に由りて壞傷せられたる此空氣は吾人自身の情慾を以て傷められ又屢々有毒なる惡魔の呼吸を以て害さるゝに於てをや、室内の空氣が外界の空氣と同一にして之より生ずる如く、且つ必ず到る處に満溢せる外界の空氣あるを予想せしむるが如く、神の神の呼吸たる我等の靈魂も亦在らざる所なく、盈たざる所なき神の神の存在を予想せしむるなり。是れ物質的殿と風神的殿との對比なり。

○聖堂に於ては其の諸般の奉事機密及び祈禱等に於て神聖の神和平の神生命及び救贖の神呼吸すと知るべし、而して是事たる獨り聖神に

適當することなり。神聖なる思想或は生命及び真理の言は之を虚偽及び死の思想或は言と區別すること、誠に容易なり即ち前者は靈魂に和平と生命とを齎らし後者は懊惱不安屬神的の死を齎らすなり『肉の念は死なり神の念は生命なり平安なり』羅馬書八の六

○神は無形の實體なるが故に極めて速かに心中より彼を失ふを得又之と同じく斷乎たる罪の痛悔を以て甚だ速に彼を内心に獲ることを得。

○奥妙なる哉心が活ける信仰に依りて生命の源たる聖神と體合する時には心中安穩快満思想は自由明晰舌は自由にして流暢なるも此時人が心窃に飲食を求むる或兄弟のことを想ふて己の兄弟の爲に或物

質的のもの例へば飲食金錢等を惜むが如きことあらば其心忽ち精神的卒中症に襲はれ束縛壓迫せられ思想も亦思想の源たる心の打破せられたるに依りて拘束せられて暗昧となり舌も亦之と同じく血液烈しく流動して腦に注入し人は全體壓迫不正則的の狀態と爲るなり吾人が我か兄弟の心靈上を慮らざるに由りて罰せらるゝことは是くの如く物質に執着するに由りて罰せらるゝこと彼の如し主よ爾の公義に光榮を歸す。

○全世界に存在活動する神の全能力は恰も太陽の光線が焦點或は玻璃に集中するが如く聖像に集中す神の能力の集中は就中神の活像たる人間に在りて其の信望愛に充されたる心に集注すること恰も焦點

に集中するが如し、義の太陽我等の三位の神は各人の信仰の程度に應じ己の豊かなる恩賜を以て各人の靈魂を暖め且つ照らしつゝ己の光を以て特に其心に反映す。

○爾等見すや破鏡に人の顔を寫す時は鏡の碎けたる塊片の數丈け其顔の多く反影するを或は一滴の水に或は露毎に或は目の各瞳子に如何に人の顔の反影するを若し夫れ是くの如きこと萬有に於て普通能くすべきことなりとせんには我等ハリストイアニ「たる者も亦焉んぞ同一の人物例へば主若くは彼れの至淨の母或は聖人の像を多く所有じ各聖像毎に恰も夫の鏡若くは繪に於て同一人物の無數の多くの像を見るが如く主若くは其至淨の母若くは聖人其者を見て之に相當の

敬意を表すべからざるの理あらんや是れ豈に萬有そのものが我等の敬虔に益するものは之を己れより採用すべきを我等に教ゆるものにて非ずや。

○我等が神至聖生神女諸天使諸聖人に祈禱を捧ぐる際彼等が我等の前に立ちて我等の祈禱に傾聽すること猶ほ日常二人或は數人相會し面々相對して談話する時の如きものと見做さる而して是れ實際然るなり主の顔は常に我等の前に在り之と同じく女宰も主神に於ける天使諸聖人と共に苟も我等の心にして彼等に向ひ居らんには常に我等と面々相對す女宰諸天使諸聖人は皆恰も一家に在る者の如く一家族の如し即ち女宰は衆人の母にして聖天使聖人等は我等の兄弟の如し

善良なる父の家庭に於ては子女恒に父母と共にして相愛し相互に慮るが如く、在天の父の許に在りても諸天使諸聖人は常に彼の顔の前に侍して互に相愛して強き者は弱き者の爲に完全なる者は不完全なる者の爲に相互に慮るなり。

○汝若し主に或は女宰に或は天使に或は聖人に心より祈らば是れ汝は主女宰天使或は聖人の心其者に向つて言ふものなり蓋し我等は皆神の一心——聖神に在りて聖人亦皆神の心に在ればなり『彼我に居りて我彼に居るなり』約翰六の五十六

○汝祈禱する時は主が祈禱の言毎に居り其の何事を求むるに拘はらず彼は汝が己の爲め并に凡そ他人の爲めに求むる所の事を實行すと

確信せよ。

○敵は毎日劇しく我が信望愛を窘蹙す我か信よ汝を窘蹙す我が望よ汝を窘蹙す我が愛よ汝を窘蹙す信よ忍べよ望よ忍べよ愛よ忍べよ信よ勇めよ望よ勇めよ愛よ勇めよ神は汝等の防禦者なり信よ衰弱する勿れ望よ衰弱する勿れ愛よ衰弱する勿れ。

○心を盡して活ける人々の顔を尊敬せよ又神の顔を當然に尊敬せよ蓋し主イエスハリストスの顔は人の顔なり人の顔を尊敬せざる者は神の顔をも尊敬せざるなり。

○我は汝の爲めに一切にあらすや我れ父及び子及び聖神は汝の神汝の生命汝の平安汝の喜悅及び幸福汝の富汝の飲食汝の衣服汝の一切

に非すや汝は何物に執着するか爾豈に塵埃に執着するに非すや汝は隣に對して我が爲に何を惜むか汝豈に塵埃を惜むに非すや爾豈に我れ萬物を造りし者の爲め我れ土及び石を化して麵麩と爲し水をして岩より流れ出てしむるを得る者の爲に惜むか汝須く常に我と偕にし我に居れ然らば常に平穩愉快ならん汝の我に信賴する心曾て衰へたることありや我は常に汝を慰め汝の生氣を回復したるに非すや。

○若し夫れ汝の幸福が隣と共通ならんには神のものは皆汝と共通ならん『爾等凡そ望む所を求めよ然らば汝等に成らん凡そ我に屬するものは爾に屬し爾に屬する者は我に屬す』約翰十五の七十七の十

○我が主イエススハリストスの名を以て惡魔に禁する時は此の汝等

の爲に甚た美はしく惡魔に取りて懼ろしく苦々しき名そのものは兩及の劍の如く自ら異能を行ふ在天の父に何事をか求め或は我等の主イエススハリストスの名に依りて何事をか行はゞ汝苟も天の父の誠命を行ふに於ては在天の父は己の愛する子の名に依りて聖神に於て悉くのものを汝に與へん若し夫れ機密に於ては全く汝の不當なるをも顧みざるなり凡そ信仰を以て神の名を用ゆる所には其名は異能を行ふ蓋し神の名其者は能力なればなり。

○人或は言ふ死者若くは生者の爲に祈禱する時其名を記憶するは何故ぞ神は全知なるを以て自ら此等の名を知り各人の需要をも知るなりとされど斯く云ふ人々は祈禱の重要なる所以を忘れ或は之を知ら

す、内心より發する言の如何に重要なかを知らず、神の公義と慈憐とは我等の熱切なる祈禱に傾き、主が己の恩寵に依り、其祈禱を以て教會の一躰の支肢たる死者若くは生者其者の功勞に歸する所以を忘れたるなり。斯かる人々は『天に録されたる家子の教會』『希伯十二の二十三』も亦その愛に依りて我等の爲めに常に神に祈り且つ彼等に祈る所の人々の名を殊更神の前に記憶し、對等に相報ゆる所以を知らざるなり。我等は彼等を記憶し而して彼等は則ち我等を記憶す己の愛に依りて祈禱の中に己の隣を記憶せざる者は己も亦記憶せられず且つ自ら記憶せらるゝに當らざるものと爲らん。祈禱に於ては信と愛の一語は其價値多し。『義者の熱切なる祈禱は多くの力あり』『雅各五の十六』

○生者死者の爲めに祈り、一々彼等の名を稱ふるに當りては、恰も其名を記憶する所の人々を己の靈に荷ふが如くし、彼等が我等の肢ハリストスの體の肢以弗四の二十五五の三十参照たるを記憶して、乳母の其子を愛育するが如く、帖撒前二の七、全心より愛を以て其名を稱へざるべからず。心の興かることなく、愛なく只だ舌のみを以て、神の顔の前に、彼等の名を算へ立るは宜しからず。須く神が心裡を鑑み賜ふ事と、我等が代りて祈る所の人々も亦ハリステアニンの愛と兄弟たる同情相愛の義務に依りて我等より之を要求することを思ふべし。同感の情なくして徒らに名を數ふる事と、熱誠を以て之を記憶するとの間には大差ありて、其の相隔ること天地の如し。主及び其至聖なる母、聖なる天使、神

の諸聖人の名は殊に燃ゆるが如き信仰と愛とを以て常に清き心よりして呼ばざるべからず要するに祈禱の言は夫の指を以て書物の紙數を緋く如く或は金錢を數ふるが如く唯だ舌のみを以て唱ふべからず即ち其言の出づる事恰も泉より活水の湧き出づるが如く其言は赤心より出づる誠實の聲と爲りて他より借りたる衣服他人の手と爲らざらんことを要す。

○凡そ言に對しては活ける人に對する如き注意と尊敬とを加へ「神の言は活きて能あり」活けるもの、如く天使の如く且つ其の屬神的微妙なる故に由りて「凡その兩刃の劍よりも利く刺して靈及び神筋節及び骨髓の間を剖くに至り且つ心の意と念とを鑒察する」希伯四の十二を

確信せよ神の言は神其者なり故に汝言ふ時は活ける者と語りて死せる者と相對せず活動的の者と相對して不動無力の者と相對するに非らざるを信せよ汝は各言を發するに當りて信仰と確信とを以てせざるべからざるを知れ言は活ける眞珠なり「爾等の眞珠を豕の前に投ぐる勿れ」馬太七の六

○人は神言より出たり人てふ詞其者と洗禮の時或は命名式の時附せらるゝ所の名は之が證據たり人苟も生活する間は人皆此の名を以て彼を呼び而して其人亦眞實其者なりとして之に應答し彼全體は其名の中に包含せらる。遂に其人死してその朽つる屍地中に埋葬せらるるに及んで唯彼の名のみ其の神言より出でたる證據として人々の記

臆に存す此名は恰も靈魂の如く非物質的永遠的のものにして彼并に我等の嗣業なり。

○祈禱に於ては第一に祈禱の目的物を明確に言ひ顯はすを要す或は少くとも心中に明白に之を意識希望するを要す第二には充分の感情と誠實に主宰若くは神の母の慈憐を恃むの心とを以て言ひ顯はすを要す第三には以後罪を犯さす万事万端神の旨に循ひて行はんとする確乎たる決心必要なり『視よ爾は愈えたり復た罪を犯す勿れ恐らくは患に遭ふこと更に甚たしからん』約翰五の十四

○汝何事かに就て主又は至聖なる生神女或は天使及び聖人に祈禱し己の爲め若くは他人の爲に神の前に代求せんことを彼等に請ふに當

りては汝の願汝の需要を言ひ現はすの言を以て汝が現に主に求むる所の事物そのものなりと見做し汝は既に汝の目的物を言ひ顯はす所の言に於て汝の求むる所のものを受くるの確實なる聘質を有すと信せよ例へば汝は己の爲め又は他人の爲に健康を求むるに當りては健康てふ言其者を以て實際の健康其者と見做し汝は既に神の仁慈と全能とに依りて健康を有すと信せよ——蓋し言名稱そのものは主にありては瞬く間に事實と爲るを得べし——然らば汝はその不撓不屈の信仰の爲に必ず求むる所のものを獲ん『求めよ然らば汝等に與へられん』馬太七の七『凡そ祈禱の時に求むる所は之を得んと信せよ然らば汝等に成らん』馬可十一の廿四

○祈禱を執行する時に於ては敵の昏昧、火及び壓迫を意に介することなく、祈禱の言其者に聖神の寶藏たる眞理、光、施生的の火、罪の赦心に廣濶安穩、喜悅、生命及び福樂の秘藏せらるゝを確信し、以て確然祈禱の言に心を注ぐべし。

○活ける熱切の信仰と敬虔とを以て呼び、或は靈魂に於て想像する所の至聖三者、或は父子及び聖神、或は父と言と聖神、てふ偉大なる名は神其者にして、三位に於ける神其者を我等の靈魂に降すなり、而して『万物は神に本づき神に倚り神に屬す』羅馬十一の三十六るが故に、汝若し汝の活信と徳行、就中溫良謙遜慈憐を以て三位の神と體合せば、彼に汝の欲する所のもの、又は聖神が汝に求むべく指示する所のものを求めよ。

必ず汝に成らん、但し其の成るは神の睿智の見込に依りて、或は直に瞬く間に於てし、一時間に於てし、或は數時を経たる後に於てせん、我に求めよ、汝に與へん』聖詠二の八、凡そ汝が求むる所のものは、その何ものたるに拘はらず、之が願與者より存在を受くるものたるを以て、その願與者より無論少なかるべきは疑なし、而して願與者自らは無限單純なるものにして、或る情態を以て我等の一思想一言にて領得せらるゝを得べきが故に、或事の成就に就て汝の求むる所の一言、汝の一の願が主の一命の下に直に事物と爲り事件となるを得べしと、信せよ。蓋し彼言へば、則ち成り、命すれば、則ち顯はれたり。』聖詠三十二の九、モイセイの奇蹟を想へよ、此の神の人が如何に「ファロン」の爲めに神たりしか、其一言に

依り又は一たび手を動かかし杖を揮ふに依りて万物立ちに變化し又は
 顯出したるかを想へ。ア、偉大なる神頌讚せらるゝの神奇跡の神仁愛
 鴻慈言ひ盡されぬ慈憐の神よ光榮は常に爾に歸す今も何時も世々に
 アミン。

○信仰に於ける傲慢は傲慢者自ら己を信仰及び教會の審判者と爲す
 を敢てすることに於て顯はる曰く我は之を信せず之を認めず我は之
 を以て無益の事不必要の事なりと思ひ彼の事を以て奇怪の事笑ふへ
 き事なりと思惟すと又信仰に於ける傲慢は自ら知る所甚た少く或は
 屬神的目的全く明を失するに拘はらず自ら知らざる所なき風を爲し
 て自賛する事に於て顯はる曰く是れ知り渡りたる事なり讀むに足ら

す此の説教書は讀むに足らす此の書中に記する處のものは皆我の己
 に知る所と異なるなしと人の傲慢の極度は凡庸の徒が敢て己を神の
 聖人と比較し彼の聖人等が自己の功勞と神の恩寵の佑助に依りて得
 たる驚嘆すべき偉大の完全即ち神自ら彼等に於て發揚し給ひたる完
 全を見るを欲せざる事に於て顯はる彼曰く我何故に彼等を尊敬すべ
 きか況んや彼等に祈禱するをや彼等は同じく是れ人のみ我は獨り神
 に祈禱すと而して神が己の爲めに義人の祈禱を請ふべきことを我等
 に命せしを知らざるなり主曰く『我唯彼のみを受く』約百紀四十二の八。
 ○信仰に於ける傲慢は又己の諸罪を感覺せざること『ファリセイ』的辨護
 及び自慢と神の仁慈を感覺せざること諸善の爲めに神に感謝せざる

事と神の偉大を讃揚するの必要を感せざる事に於て顯はる凡そ主全能者精神と諸の肉體の神己の生命に祈らざる者は皆是れ隱密の傲慢に依りて祈らざるなり。

○神の母に祈禱する時に於て彼に對して當然懐くべき敬虔の念を己の心中に發見せず奸惡誹謗の思念を感ずる時は當然彼に附すべき左の讃詞を唱へよ曰く女宰よ爾は悉く光悉く神聖悉く仁慈悉く睿智爾は全能者の母として萬事爲す能はざる所なし爾は常に惟一にして光榮の純全たる王の母として同く純全なりと。

○不信は自ら虚偽にして眞理と毫も類似したる所無きを證す即ち不信の心は不安錯雜薄弱茫漠たり之に反して信仰は安穩幸福堂々毅々

乎たり。

○主若くは女宰若くは天使若くは聖人に祈りつゝ主女宰天使及び聖人をして汝の願若くは信者の願を成就するに就て何等の勞をも煩はさしむる勿れ乃ち汝が或幸福を思想することの易々たるが如く主も己の人々に之を與ふること容易簡單なりと信せよ且つ主は己の至聖なる母天使諸聖人の祈禱に由りて與ふるに就ても亦然りと信せよ加之神は濼々たる無限の仁慈なるが故常に其の仁慈を己の造物に與へんと欲して之を求むる者を尋ぬるを以て我等は唯己の罪深きこと不幸貧弱盲目なること彼に依らずんば無力なる事を悟りて信と望と愛とを以て子の父に對する如く彼に向へば可なるのみ。

○父と子と聖神——三位に於て惟一なる神に祈禱する時彼を己の外に求むる勿れ乃ち彼を以て汝の内に生活し全く汝を貫徹洞知する所のものとして己の内に冥想せよ『爾等豈に知らずや爾等は神三位に於ける神の殿にして神の神爾等に居ることを(哥林前三の十六)我彼等の中に居り彼等の中に行き即ち彼等と共に行き(我彼等の父とならん)利未二十六の十二、哥林後六の十六、十八参照)ダワイド曰く主よ爾は我を試みて我を識る』聖詠百三十八の一参照)と。

○祈禱の時に於て汝の願ふ所の事の成るや否やを疑はゞ則ち唯だ悪魔にのみ相當する純平たる惡の外神の方よりしては一として汝に與ふるを得ざるものなく汝の言若くは汝の願其者は汝の方よりの確實

なる保證にして其の願ふ所必ず成就すと想像せよ蓋し我若し或る事に就て其事果して我が爲めに能くするか若くは能くせざるやと思想するを得るとせんには其事主に取りては必ず能くせん蓋し主は苟も己の思想を實行せんと欲せば思想其者は主に取りて既に事實なればなり且つ汝の爲にも此幸福は既に言の中に實在するものにして、只事實の上に存在せざるのみ然れとも其願を實行するが爲には彼れに創造者たる子と成全者たる聖神あり万事を實行するを得るの能力に加ふるに更に彼の無限の仁慈を以てせよ彼は此仁慈に依りて万有と万有の悉くの賜の永遠に流るゝ泉なり彼は恩賜の神なり矜恤鴻慈の神なり『求めよ然らば爾等に與へられん尋ねよ然らば遇はん門を叩けよ

然らば爾等に啓かれん(馬太七の七)更に之に加ふるに神の睿智を以て
せよ此睿智は恩賜に關して我々の爲めに最も善く且つ我が身靈の狀
態に最も相應したるものを撰擇すべし汝は只汝の求むる所のものは
主の必ず之を成就せんことを確信して疑はず且つ汝の求むる所惡き
ものに非ずして必ず善きものたらんことを要するのみ曰く彼に求む
る者に善きものを與ふ(馬太七の十一)と。

○神に祈禱するに當りては確乎不撓の信を有し何事に就ても疑惑を
起すことを困難ならしめ且つ之をして不可能ならしむること必要に
して之が爲めには神には能くせざる所なし(馬可十の二十七)との言を
心に銘するを要す加之主が万事成さざる所なく彼の本性は愛及び仁

慈にして造り與へ憐み恵み我等の願を成就することは彼れの業にし
て殆んと其本性の如しとの活信を有するを要す凡そ祈禱の時に求む
る所は之を得んと信せよ然らば爾等に成らん(馬太廿一の廿二又馬可
十一の廿四参照)又深く己の心に注意して虚言を吐かず主よ我深き處
より爾に呼ぶ(聖詠百二十九の二)と云ふが如く一言一句をして心の奥
底より出でしめ即ち祈禱の眞實ならんことを慮り其の赤心より出て
て他人の作りたる祈禱の言を化して己のものとなし祈禱の一言一句
を眞實のものと爲さんことを慮ること極めて必要なり。

○銳意愛のことを慮れ万事過ぎ去らんされど愛は自ら愛たる神其者の
如く永遠に存せん。

○生活は是れ大なる實驗的學問なり細き路と容き門なる此學問を通
 行するほど困難なるものあらじ家庭若くは學校に於て神を信じ神を
 畏るゝ事と敬虔なる生活を爲すことに慣れざるものは生活の學校に
 於て學ぶこと殊に困難ならん是くの如き者は假令學校にありては賢
 明博識にして己の優才の爲めに大に尊敬を博すと雖も生活の學校に
 於ては無學者と爲らん加之その圓滑ならざる性質或は放縱なる故に
 因りて家庭の生活にも社會的生活にも何事にも不適當のものとなる
 ことあり是くの如き輩は恰も多くの貨物を満載せる船が暴風に際し
 舵もなく索もなく帆もなく纜を解かれて颯々海中に漂ふが如く生活
 上に艱難辛苦を嘗めて往々轆轤に遭遇することあらん

○汝解語の造物は須く悉く言にて造られ悉く言にて存在を保つを記
 臆し汝の口の言に依り神の權にて造り若くは變化することは最も普
 通の事たりと確信して疑ふ勿れ故に言に對して大に尊敬を加へ言を
 空費する勿れ況して言を虚偽の具と爲す勿れ神は虚偽を言ふ者を罪
 定せんア、我が神よ神靈界及び物質世界は神の言にて造られ且つ存
 在す而して此神の言は父及び神と共に單純なる者三位に於て叩拜せ
 らるゝの神及び惟一なり。

○神に種々なる幸福を求めつゝ神は萬人の爲めに一切なりと信せよ、
 即ち彼に健康を求めば彼は汝の健康なりと信せよ信仰を求めば彼は
 汝の信仰なりとし愛を求めば彼は汝の愛なりとし平和及び喜悅を求

めば彼は汝の平和及び喜悦なりとし、見ると見えざる敵に對する佑助を求めば彼は汝の全能の佑助なりと信せよ、汝は如何なるものを彼に求むるにせよ、彼は即ちこの幸福にして汝に此幸福を興ふるを以て汝の爲めに得策なりと認むれば汝の爲めに此の幸福と爲らん、神は萬有の中に万事たらん、哥林前五の二十八

○甲の口に於ける言は神なり、生命なり、されど乙の口に於ける言は死せる文字なり、例へば祈禱及び説教の時に於て我が爾等に語りし言は神なり、生命なり、約翰六の六十三、我等の言も亦實際斯くの如きものたらざるべからず、蓋し我等は神言の像なり。

○身體の空氣を呼吸する如く、靈魂は神の仁恵を呼吸す、父及び母が我

等の日常の糧たる麵麩若くは魚を日々其子に興ふるを以て最も通常の事、自然の事、必要の事なりとし、假令本性悪しく狡猾なるも、小兒に對して麵麩の代りに石を興へ、魚の代りに蛇を興ふるが如きことなし、然らば、況んや自ら仁慈たる在天の父、豈に限りなく多く恵まざらんや、況んや彼は之に求むる者に善き物を興へざらんや、馬太七の十一、水の地に於て、浩浩々漫々として限りなく、人皆之を飲み、無費にて來り、吸むが如く、主も屬神的の泓々たる活水の大洋なり、皆須く來りて、眞實堅固にして、且つ耻かしからざる信仰てふ釣器を以て有らゆる屬神的幸福を汲め、唯だ此の心の釣器を伸べよ、然らば、心す生命の水、罪の赦免と良心の平安を豊かに汲み取らん、されど懷疑を恐れよ、懷疑は汝をして神の有

らゆる恩恵を汲むの方法を失はしめん。

○若し至仁全能の者としての神に對する確乎として耻かしからざる信仰を有せずんば徒らに幸福を與ふる事を神に求むるに汲々たる勿れ、然らずんば悪魔は汝の祈禱の成ることに對する薄信若くは不信を以て汝を中傷して汝は神の顔より不面目の者憂愁鬱々たる者として去らん。輕卒なる勿れ乃ち主の言ふが如く先づ坐して己の靈資若くは信仰を計りて之を成すに足れるかを見よ、然らずば悪魔は汝の不相當なるを見汝を晒ひて『此の人建て始めて始めて終ふること能はずと曰はん』路加十四の二十八至三十されば預め祈禱するに先だちて汝の信仰の程度を顧みよ而して之を充分のもの活けるもの堅固なるもの耻しから

ざるものと認めば『我等毅然として恩寵の寶坐に就くべし、矜恤を受け機に合ふ助として恩寵を獲ん爲めなり』(希伯四の十六)

○主は物質世界に於ては太陽を以て我等と地と萬物とを照らし且つ温めつゝ我等を恵み又空氣と水と植物と動物とを以て我等を恵むが如く、屬神界に於ても主は己の恩寵を以て我等の知識と心を照らし我等を辯護救贖憐愍慰守護しつゝ直接に我等を恵む(但し之とても聖務執行者を経て)も多くは己の役者たる奉事するの神と呼ぶる、天使を経て己の諸聖人を經、就中諸造物よりも高尚なる己の至淨の母を經、列祖預言者使徒諸主教致命者克肖者義人等及び諸聖人を經て我等を恵むなり。此等の聖なる者は皆是れ我等の救贖に益する神の役者なり。『彼等は

皆奉事する神遣はされて救を嗣がんとする者の爲めに役事する者に
 非ずや』(希伯一の十四)彼等は義の永遠の太陽たる神の燦爛たる有智の
 光線なり我等焉んぞ我等の救贖に役事するの恩寵を親しく主より受
 けたる此等善良の者を呼びて佑助を請ひ己の爲め代求を求めずして
 可ならんや又焉んぞ彼等に相當の尊敬と感謝を加へずして可ならん
 や是れ豈に人間普通の交際と禮儀の法にすら適ふものに非ずや。
 ○路得教徒は我等何ぞ己の爲めに聖人の祈禱を請ふべけんや我等は
 神そのものに求めんのみと云ひ以て彼等は矛盾するなり蓋し彼等が
 己の爲めに祈ることを牧師に請ふは何故ぞ若し何人も神に對し一様
 に接近することを得たらんには牧師なくして祈ることを得て成聖せ

られたる祈禱者は我等の爲に必要なかるべし嗚呼是れ何等の愚昧ぞ
 彼等曰く聖人に祈るは偶像崇拜なりと是れ虚妄なり我等は一聖人を
 も神として尊ばざるなり一聖人にも神として祈らざるなり乃ち唯だ
 己の爲めに祈禱せんことを請ふのみ豈に偶像崇拜の影だも有らんや
 我等が活ける聖役者及び祈禱者に向つて神の前に我等の爲めに祈ら
 んことを請ふ如く夫の神に對する愛に由りて神の前に大なる勇みを
 有する在天の祈禱者にも請ふなり加之彼等の多くは地上にありて己
 に神の前に對し世界の爲めの祈禱者中保者たりき而して彼等の此動
 作は彼の天に於て繼續せらるゝものにして彼等は重苦しくして固陋
 なる肉体に妨げられざるを以てその範圍一層廣く其力殊に強し聖人

は皆此世の舞臺を終はりたるも彼等は猶ほ生く神は死者の神に非ず
 乃ち生者の神なり蓋し彼に在りては皆生くるなり。路加二十の三十八
 ○「恩寵を蒙れる者慶べよ主は爾と偕にす」路加一の二十八聖教會は至
 聖なる童貞生神女に對して斯く呼ぶ然れとも主は凡そ主を信する敬
 虔なる靈魂とも偕にす。處女マリヤの救世主を懐胎する以前主の之と
 偕に居りし事は是れ獨り至潔なる處女マリヤにのみ特有の事に非ず
 して主は凡ての信者の靈魂と偕にするなり。凡そ主の誠命を格守する
 人に對して「主は爾と偕にす」と云ふを得べし。主は實に凡ての人に近し
 唯だ人は己の心を以て彼に遠ざかり己の思想を以て心の志望と意嚮
 とを以て神の法に反對する己の言行を以て主より遠ざかるなり。至潔

なる處女より生れたる我等の主は「我爾等と偕にして世の終末まで在
 るなり」馬太二十八の二十と云へり是れ即ち主は凡ての時凡ての人種
 凡ての時代世界の凡ての場所に於て我等各人と偕にして世の終末ま
 で在るを謂ふなり。
 ○我は神に在り神と偕にし神の前に在り神の下に在るなり。彼は我が
 生命なり彼は身體の生命の爲めに空氣や水を漲らし食物を生せしめ
 而して我等の靈魂の爲めには在らざる所無く盈たざる所なき者自ら
 空氣たり食物たり飲料たるなり。我は或は歩むも或は坐するも或は眠
 るも或は食するも何處に在るに拘はらず凡ての場所に於て我は常に
 神に於て在るなり。甲は乙の像なり呼吸せんが爲めには口及び嗅官を

開くを要し、神的生活を爲めには祈禱を要す。祈禱を熱誠ならしめ之をして全く靈心を掩ひ集中せしめんが爲めには己の心に對して深く注意し、智と心を唯一の神に集中若くは傾注し、心より悉くの虚偽、二心及び此世に對する執着心を斥くること必要なり。

○常に我が心中の至大の迷なるものは我等が如何なる場所に於てか何時か瞬間たりとも神無くして神以外に存在することを得べしとする。秘密の思想にして我等は断えす全生涯之と奮闘すべきものなり。心は其の常に冥々裡に遠ざがるの神に固めさるべからす。ハリステイアニシテ的の生活上に於ける大なる成功を獲得したる者は誠心サムイルの母アンナと共に左の如く叫ぶを得る者なり。曰く我が心は主に依りて

喜び我が角は神に由りて高し、我が口は我が敵の上にはりひらく。此は我爾の救拯によりて樂むが故なり。撒母上二の一。

○神は活ける神にして萬物を生かす者。生神女も生き、天使及び諸聖人も亦生き居りて彼等が神に於て我等の聲を聴く者なりと記憶すべし。

○『聖神に藉りて祈れ』猶太一の二十。聖神は靈魂の爲めに空氣なり。イイススハリスよスは生を施すの食物なり、されど神も子も別つべからず、空氣と食物とは等しく必要にして相分つべからざるが如く、聖神及び子はそれ自身に於てもその我等の上に對する動作に於ても相分つべからざるなり。而して神父は子及び聖神の本原及び元始として此の二者を経て元始的に仁惠的に動作するなり。

○曾て救主の衣に捫りし者は癒されき。今又信仰を以て聖水を用ゆる者の癒さるゝは何故ぞ信仰の祈禱と共に水中に没せらるゝ十字架は宛ら生を施すの主其者の如し。救主の衣服は彼の生命にて貫かれたる如く生を施す十字架を没したる水も自ら生命にて貫かる是れ水に醫治の効有る所以なり。

○神ほど我等に近きものあらじ。彼は心の神心そのもの、神なり而して心は亦何物よりも我等に近し使徒の言に依れば心は即ち人全體心の内の隠れたる人なり『彼得前書三の四』

○我は早課に行けり朝暾東天に登りて柱に懸れる街燈に反射せり。その反射の暉を皓々たること恰も太陽そのもの、如くにして之を直視

する能はざりき我は思ひぬ若し物質的被造的の太陽が透明なる玻璃に斯くも充分に其光を反射せんには屬神的の造られざる太陽たる神は豈に罪暗の源たるより清まれる人の心中に反射せざらんや彼豈に此世に於て己を凡その肉と神との汚より潔くし神を畏るゝを以て聖を成すべく哥林后書七の一己を淨めたる聖人若くは現に淨めつゝある聖人等の彼と體合したるが爲めその己に對する愛の爲め燦爛として之に反映せざらんやと然り彼は己の選びたる者の靈魂には美事に反射す是の潔き靈魂是の神の像は透明なる玻璃として其の輝くこと太陽の光を受くる黄金の如く清水中の金剛石の如し但し彼等は己の光輝を人々に示さずして神の爲め諸天使の爲めに輝くと雖も神の計

ひに依り己の信仰と己の徳行の光を以て、恰も室内の燈臺の上に置かれて、其室と凡そ室内に在るものを照らす燈の如く、人々を照らすなり。〔馬太五の十五参照〕更に譬を擧げんに、被造的太陽若し街燈に反射すとせんには造られざる無形の太陽は、豈に全體を以て——而も實體的に——生を施す神の作用を以て主の高壇に於て己の至潔なる體血に反射せざらんや。然り彼は己の悉くの光と己の悉くの愛を以て全體反射し、我が體を食ひ我が血を飲む者は神に居り神も彼に居るなり。〔約翰六の五十六〕と云はるゝに至る體及び血はハリストス全體なり。

○祈禱に於ける願は万事を己の功に歸する我等の傲慢なる肉に對するもの感謝は神の無量の仁慈に對する我等の肉の無感覺に對するもの

の讃揚は唯己の爲めにのみ光榮を求むる肉體的の人に對する者なり。○祈禱は我が有智的個體我が神の像たる事の證據にして我が將來の肖神及び幸福の聘質なり。我は無より造られ我は一も己の物を有たざるものにして神の前に無なり。然れども我は彼の矜恤に依り人にして智と心と自由の意旨を有し而して己の智と自由とを以て熱誠彼に向ふに由りて、漸々己に彼の無限の王國を擴張し益々多く己に彼の恩賜を増し滾々として永遠に流るゝ無盡藏の泉たる彼より屬神的及び肉體的の一切の幸福就中屬神的の幸福を汲み取るを得るなり。祈禱は我に諭すに我は神の像にして己の靈魂の謙遜感謝的態度を以て神に向ふに於ては己の自由の意旨を全うしながら我は無限に神の屬神的恩

賜を増しつゝ無限に完成し限りなく我が宵神と我が豫定せられたる
 在天の幸福とを増すを得べきを以てす。ア、祈禱は是れ造物主が我に
 與へ賜ひし私の偉大なる資格の表徴なり。されど祈禱は之れと同時に
 我をして私の無なること我は無より造られ我は一も己の物を有せず
 是れ萬事を神に求むる所以なりと併せて私の資格の高尙なること我
 は神の像我は宵神せられたる者にして苟も我が神の存在仁慈及び全
 能を疑ふことなく信じ愛と慈善の事業を以て生涯神に克似したらん
 には我は信者の父アウラムの如く神の友と稱せらるゝを得べしを
 も記憶せしむ。

○不斷の温き祈禱は我等をして我等の靈魂の不死と夫の非物質的世

界の幸福とを最も誠實に確信するに至らしむ。蓋し祈禱の快樂は人悉
 く之を神聖神より汲み取り凡ての力を彼より并に彼の恩寵に依りて
 神の母より彼は我等の靈魂を災難より救脱し我等を安泰にし悦ばし
 活氣を與ふ。天使及び諸聖人より受くればなり。

○爾等豈に知らずや爾等は神の殿にして神の神爾等の中に居ること
 を哥林前書三の十六ハリストスを死より復活せしめし者は爾等の中
 に居る所の其神を以て爾等の死すべき身をも生かさん。羅馬書八の十
 一兄弟等よ常に爾等の中に居る所の聖神に注意し畏みて汝等の死よ
 り復活する秘密及び奇跡はハリストスの恩寵と恩賜に依り水と神に
 因る洗禮の爲め痛悔及び就中生命を施す彼の機密を領するが爲め今

我等の中に居る所の聖神に依りて行はるゝを記憶せよ。

○神は眞實なり我が祈禱も品行と共に眞實ならざるべからず神は光なり我が祈禱も智及ひ心の光に於て献けられざるべからず神は火なり我が祈禱も品行と共に燃え立たざるべからず神は全く自由なり我が祈禱も心より自由にして溢出するものたらざるべからず抑も人の神の富は如何なるものぞ即ち唯須く神の事を熱切に思慮せよ唯須く神と熱切に體合せんことを望めよ然らば彼は直ちに汝と共にせん家の壁も牢獄の如何なる絞釘も山も淵も此の體合を妨ぐる能はず神は直ちに汝と共にし天使も諸聖人も亦然らん彼等は神と共にして汝の最も親密なる友汝の親戚の如く皆汝の眼前に立ち汝の心に臨ま

ん。ア、偉なる哉人の神の富よ。

○神は單純にして万般の屬神的物質的のものを貫き悉くの有智的諸神と悉くの無智的靈魂と天體と地と地上の悉くの有機體及ひ無機體のものを貫き常に此等の上に超然たるを以て毫も此等のものに制限せられず神の神として此等のものを活かしつゝ此等を貫き或は山や岩や墻壁の如きものは之を生かさずして容易に之を貫き全く何物もあらざる如く縱横自在に万物を貫くを得神は全く如何なる屬神的又は物質的のものも有らざる如くにして存在するを以て我は常に神と偕にすと云ひ或は獨り神と我あるのみと云ふを得聖詠者曰く爾は我と偕にす』聖詠二十二の四又主は聖使徒パウエルに謂て曰く神爾と偕に

す行實十八の十。

○我等立ちて熱心に祈禱し若くは坐し若くは臥し若くは歩行しつゝ、
 時として俄に神の神の臨むを感じ、その聲を聞きて神が靈魂に入るに
 口を経す鼻を経す耳を経す(假令救世主は言と呼吸を経て神を賜ひ且
 つ信は聞くに由る(羅馬書十の十七)とは云へ)乃ち直接に體を経て心中
 に入ること猶ほ主が復活の後家の壁を貫きて使徒等に至りし如くな
 るを認め其動作電氣の如く速かにして電流よりも迅速なるを認むる
 ことあり然る時は汝は非常に輕快とならん是れ蓋し汝の罪の重軛俄
 に解かれ諸罪の痛悔傷感和平喜悅の神汝に臨むに依るなり試に天使
 がペートルを放釋せんが爲めに夜半鎖されたる獄中に如何にして顯

れしかを見よ、戸は鎖され看守は戸の傍に立ち居たり然るに見よ天使
 は俄に使徒の前に立ちて瞬く間に光は室に輝けり(行實五の十九)斯く
 の如く神の神も亦瞬く間に我等の靈魂の室なる身體に臨みて光は之
 に輝くなり。

○聖人は如何にして我等に聴くや彼等の聴くは願はくは彼等も我等
 に在りて一と爲らん(約翰十七の廿一)と云ふが如く聖神に於て我等と
 一なるものとして唯一のハリストスにて建てられ唯一の神の神にて
 活動せらるゝ唯一の神の教會の會員として聴くなり聖人が聖神に於
 て我等を見我等に聴くこと猶ほ我等が肉體の目及び耳を以て光及び
 空氣を経て物を見聲を聴くが如し但し我等の肉體の視官及び聴官は

屬神的視官及び聽官と比較する時は遙に不完全なり我等は遠距離に於ては見ざる所の物最も多く聽かざる所の音聲多ければなり屬神的視官屬神的聽官に至りては完全にして心裡の一の動搖一の思想も一の言語志望希望と雖も之より逃るゝものあるなし蓋し聖人の其中に居りて我等を見我等に聽く所の聖神其者は完全全知にして在らざる所なきを以て見ざる所なく聞かざる所なければなり。

○祈禱の効力は之を譬へば天を啓き天を閉ぢ火を化して露と爲すが如し最も有力なるは誰の祈禱ぞ天に於ては神の母及び諸聖人の祈禱なり地上に於ては己れ及び人々の爲め祈禱せんが爲めに(即ち己の罪の爲め民の愆の爲に)——希伯九の七)神の寶座の下に神にて親しく立て

られたる司祭の祈禱克肖者及び隱遁者の祈禱我唯彼を受く——約百紀四二の八)なりハリスチアエニンの祈禱に對して怠惰なるは是れ信望愛の缺乏を來し罪と不法を生じ身靈の不幸災難を招ぐ所以なり。

○神の司祭よ汝は神の人々の爲に祈禱するの恩寵を神より汝に賜はりたるを常に誠心確信せよ汝が因て以て多くの人の靈魂を救ふを得べき此の神の大なる賜は汝に徒爾たらざらん主宰は汝の人々の爲に捧ぐる熱切の祈禱を速に聽き納れ人々に慈悲を垂れ給ふの容易なること猶ほモイセイアローンサムイル諸使徒の祈禱を聽き納れ給ひたるが如くならん聖堂に於て奉神禮若くは機密を行ふ時又は家に於て機密及び諸種の祈禱を行ふ時常に祈禱の機會を逸する勿れ到る處常

に神の人々の救贖のことを記憶し以て己れに神の大なる恩寵を獲得せよ。

○汝は一瞬一秒も生を施す聖三者にて生活せざるなき所以を常に確信すること猶ほ汝が觸感的光にて照され飲食にて養はれ空気にて呼吸し汝の爲に合一する此の三勢力にて生活するが如しと思へ。

○世界の物質は有る無きが如く(聖詠三十八の六參照萬物の上に超然として生を施す神の神は到る處萬物の中に在り神に祈禱する時は物質を以て恰も存在せざるが如く造物を以て悉く在らざるものゝ如くに見做し唯だ神獨り到る處に存在する惟一なるものにして之に對して場所あるなく自ら萬物を充實包括造成保護すと思ふべし汝若し物

質的のものに對して執着することなく祈禱と齋戒に練習せんか然る時は汝に於て神は恰も肉を併呑したらん如くにして汝は屬神となり、到る處萬有に於て神なる神を冥想せん若し之に反して地上のものが就中飲食金錢に執着する者は「靈に屬して神を有たす」猶大一の十九萬事に於て神を想像せず甚しきは事物の屬神的方面を排して唯肉のみ之れ見るに至るなり。

○苟も建築の材料ある所には必ずや之が造營者をも想像せしむ蓋し何等の智をも力をも有せざるものは自ら體を具へ成長し實を結ぶ事能はざればなり知るべし生活に於ける一瞬一秒皆是れ無限の智全能の手にて支配せらるゝを。

○物質的太陽が其圓圏と光輝とを以て地上無數の透明なる物体に反映するが如く屬神的大陽たる神は天地間に在る無數の者に——天に於ては天使に地に於ては人々に己を反射し給ひたり物質的大陽の光すら假令透明なるも堅固なる物体に遮られず乃ち自由に之を貫きて四面外部の空氣より密閉されたる室若くは光に向ひたる透明体に輝くが如く屬神的大陽も屬神的大陽の者の爲めには墻壁にも牢獄の暗き壁にも天井にも神の僕の洞窟に隱遁する巍々乎たる大山にも地の深淵にも如何なる物質的障礙物にも遮られず彼は到る處に貫きて到る處苟も天の眞理の光輝を受くるを得るの靈魂には皆輝くなり、パウエル及びシラ獄中に祈禱して神を讚榮せしに主は彼等の祈禱を聴けり——行實

十六の廿五廿六。

○我等祈禱する時は主の耳は我等の祈禱に傾き其時彼は常に我等に近きが如く我等に近くして其近きこと我等の前に在る聖像の我等に近きが如く或は之れよりも更に近くして彼は我等の心に在るなり彼の我等の傍に實在するの明かなること猶ほ見ゆる聖像の如し故に聖像は實に主の如何に我等に近く彼の如何に我等を見如何に我等に聴くかを象どる明瞭なる形象なり又聖神に於ける神の聖人の我等に近きこと^あ在らざる所なく^あ盈たざる所なき聖神の我等に近きが如く——我等は神の殿なり、哥林前六の十九——にして彼等は聖神に於て我等を見我等に聴くこと尙ほ我等が我等と談話する人々を見其言を聴くが如

し聖神は亦是れ通常の見聞にも與かるに非すや。

○汝等聖人の聖像の上に主イエスハリストスが一手に地球を携へ一手にて祝福しつゝあるの状を以て畫かるゝを見ん是れ實際より取りしものなり主は常に此世に於て彼の爲めに苦行する者を天より鑒み全能の王として其救の敵と戰ふ事に於て熱心彼等に扶助を與へ和平と聖神に由る喜と羅馬十四の十七を以て己の苦行者を祝福し其の地上の苦行を終りたる後之に生命の榮冠を與ふさればハリストスニアニシよ汝等皆信の首及び成全者なるイエスを仰き望みて希伯十二の二信仰と望とに固まれ彼は曾て初致命者ステファジを鑒み之が爲めに天及び己の光榮を開きたるが如く(行實七の五十五五十六)又サウル後

のパウエルを鑒み天に於て己の光を以て彼を照し己の聲を以て彼を呼び以て己を彼に現せし如く(行實九の三四)常に天の高き所より汝等を鑒み汝等の悉くの行爲を鑒みるなり。

○我が生活の目的は神と體合するに在り即ち此世に於ては信望愛を以て體合し未來に於ては純全たる愛を以てするなり然るに仇敵及び我等自身が此世に於て如何に此の目的を傷けつゝあるかを見よ我等は種々の情慾的執着に依りて諸種の事物に心を奪はるア、懼るべき哉時として我が愛は金銀衣食住粧飾及び同種の人々に傾注して神を忘るゝに至ることあり時として我等は傲り嫉み怨み偽り以て憎悪虚偽傲慢嫉妬の權化たる悪魔と直接に合體するにあり嗚呼是れ我等

は己の像と肖とに依りて我等を造りたる我が主宰を如何に侮辱するものぞ我等豈に此の神にて記され神其者より寫し取られたる像を汚すものに非ずやされど我等は此の事に關して思慮すること甚た少なく我等の爲めに主要なる事件——神と體合すること——に就て通曉せざること甚し。

○苟も己の上に無形體の敵の斷えず居る事と其憎惡とを知る者は假令彼等諸敵が百方其心を憂鬱に陥れんとするも甚しく憂々鬱々たるに至らざらん又彼等が百方力を盡して忿激せしめ憎惡嫉視せしめ金錢及び物質の獲得に執着せしめんとするを知りて事毎に激怒せざるに至らん要は唯だ己に對して深く注意すへきのみ蓋し敵は往々我等

の自愛の假面を被り恰も我等の幸福の爲めに戰ふ如くにして其實自ら絶對的に我等を滅ぼすなり嗚呼ハリストス救的望なる哉見えざる敵の奸計に由りて汝を失ひたる者如何に多きよ失望落膽して自害せし者如何に多きよ緣死者溺死者及び其他の方法を以て己の身に手を下したる者并に醉漢等幾何ぞ。

○主は許約の言を發すれば其言必ず應ず彼は言へば即ち成るに非ずや主は萬有の法則其の不變不易確乎たることを以て己の許約の必成の證と爲す。

○汝等祈禱の時若くは神の言及び其他の聖書を読む時又時として内容の良好なる世俗的の書類にして例へば神の照管の人々の上に作用

するを示す事件を書したる如き若くは敬虔なる談話を爲す時に於て
微かなる聲聞え恰も汝の身體に電氣の觸るゝが如き感を爲すことあ
らん。是れ主は汝に臨みたるなり。『微かなる聲あり而して彼處に主在ま
しき』(列王記上十九の十二)。

○女宰若くは或る聖人に祈る時汝は教會の一員にして女宰は其建物
の首石無形の造物の首生神女讃詞なりと確認し而して汝は假令軟に
して硬からずとも建物の一の石として悉く天に住む者と内々密接に
連結せらるゝものと知れ斯く自ら悟得したらんには汝は祈禱の容易
に聖人に達する所以を解せん蓋し我等は悉く唯一の首ハリストス(以
弗一の二十二参照)を戴き皆悉く一の神の神にて生活すればなり。

○主は我が有機的體の生命の本原にして肺、胃、心臓、脈管筋の作用を
經て常に我を支持する者又屬神有機的體の本原にして知識思想を
經己の光を以て心を照すに由りて我を支持するものなり。

○信仰の勢力は奇異なる哉神に對する活ける思想神に對する熱切な
る信仰あれば彼は即ち我と共にす彼に對する信仰と共に熱心なる罪
の痛悔あれば彼は即ち我と共にす善良なる思想あれば彼は即ち我と
共にす敬虔なる感情あれば彼は即ち我と共にす唯夫れ惡魔の我に入
るや猥褻、奸惡、誹謗的思想たる懷疑、恐怖、傲慢、憤激、憎惡、吝嗇、嫉妬等を
經るものなり知るべし彼の我を制するは全然我に關するを即ち唯我
は己に注意し信仰と愛とを以て斷えず、イエススハリストスの名を智

中に懐かば彼(悪魔)は我に何等の害をも加ふるの力なからん。

○万事無形體の敵の欲する處に反して行ふを努めよ。彼は汝を煽動して傲慢自負兄弟を誹議せしめんとせば汝は自ら謙りて己を塵芥と見做し出來得る限り嚴格に自ら己を罪定し心竊に兄弟を賞讃せよ。汝の兄弟若し敵の作用に依りて傲然惡意的に汝を遇せば汝は謙遜と愛とを以て彼を遇せよ。敵若し汝をして吝嗇ならしめんとせば汝は好意を以て豊かに恵めよ。凡そ之に類する場合に於ては常に斯く爲すへし。然かせば汝は神の大なる恩寵を蒙り自ら心の眼にて之を見ん。汝の内部に斯く行ふの勢力なく敵は強しと曰ふか。即ち時々刻々祈禱に於て全能者に求めよ。然らば彼れ汝を助けん。

○汝が神と眞實とを以て聖像例へば救世主の聖像の前に立ちて祈禱し始むるに循ひ聖像に畫かれある者の神は聖像に引寄せられ聖像に畫かれある人物の實在に對する汝の信仰が其人物を活ける者として見る程に至らば其人物は則ち實際に己の恩寵を以て其處に有るなり。言ひ涙を垂れ血を流したる奇跡的聖像は其實例なり。是れ彼等が非常に熱心活潑に視る所以なり。石を活かして之より人を作るを得るの神に取りて何事か能せざるものあらん。彼は繪畫的の像に對しても亦奇跡的に斯く爲すを得。信する者には能くせざることなし。〔馬可九の廿三〕
信する者には至上者奇跡的に臨むなり。彼は生を施すの十字架の記號と合して奇跡を行ふ。

○人は是れ工藝的に地に嵌込まれたる神の像に非ずして何ぞ蓋し人の身體は地なればなり神が物質的形像に於て顯はれ像の口を以て語ることすらあるも怪しむ勿れ蓋し神には能くせざる所なし馬可十の廿七必要ある時には彼は驢馬に依り人の聲を以て言ひし事あり民數記略二十二の二十八

○時として或る寫眞を評し精巧眞に迫りて殆と言はんばかりなりと云ふ事あり若し夫れ人間は己の技術を以て斯く布或は板或は紙を生々とするを得るとせんには神に取りて何事か能くせざるものぞ彼にして欲せば何ぞ像に生命をも吹込まざらんや何ぞ之に言ふの機能を與へざらんや像は唯た言はざるのみ工藝者よ汝の爲す所至れり盡せり

主をして完成せしめよ彼は像をして言はしめん。

○神靈世界は存在し距離を以て相離るゝ靈魂の交通及び死せる人々の靈魂の交通もあるなり此等の靈魂は我等を視我等の聲を聴く此にその明白なる證據を擧げんに一人の婦人あり其良人彼女を距る六百露里の地にありて病を得室に臥し後遂に死せりしに或夜彼女は病人を訪問せし人々の何人なりしやを見又病人が何を爲せしかを見其の語りし言語をも聴けり諸聖人の我等を視ること亦猶ほ斯くの如くに非ざるか。

○我は他人の顔を見つゝ己の顔を見る蓋し我等は皆一の如く神に造られ一人の人一つの血より出で皆等しく神の像に依りて造られたれ

ばなり故に凡そ人を見るに清潔の心を以てし邪推を以てせず敵愾心を以てせず詐偽の心を以てせず貪婪の念を以てせず乃ち神の純乎たる愛を以てせざるべからず我は之と同じく諸聖人の像神の母及び神人主イエススハリストス其者の像を見つゝ亦彼等に於て己を見る蓋し彼等は皆是れ人にして我等の神イエススハリストスに至りては其の藉身及び人と爲りたるに依りて我れ全體を衣人類に無限の尊敬を施し彼を信じて洗禮を領くる者より罪惡の臭氣を驅逐し信仰と洗禮と彼れの神聖なる體血の領食とに由りて彼等に宿りたる聖神の成聖を以て彼等を芳香馥郁たる者としたればなり夫れ然り故に汝は他人に於て己を見よ然かせば他人も汝に於て己を見ん人を愛する己の如

くせよ之と同じくハリストスに於て彼れの至聖なる母に於て諸聖人の顔に於ても己れ及び人類を見神及び諸聖人の聖徳に則るに依りて之が同類と爲れ然らば汝が徳に依りて神及び聖人に彷彿たる丈け彼等も亦汝に於て己を見汝の公審判に立たん時彼等は汝を見て己の支肢と爲し己に屬するものとして汝を引き取らん。

○余が智と心とに屢々神の名女宰生神女諸天使神の旨に適ひし人々の名を記憶し年中悉く之を其名に依りて呼び又毎日教會の特別なる記憶の祈禱に於て或は聖水式の時之を口に唱ふるを得るは余の悦ぶ所なり蓋し誠實に心より記憶せらるゝ神の名は我等を聖にし我等を活かし且つ慰むるものにして有力の代求者たる神の母の名も亦然り

とす神の前に於ける我等の代求者たる聖人に至りては我等が祈禱に於て彼等と呼ぶ時我等の爲に祈禱しその善行を以て種々に我等に輝くなり神及び在天の人々と和親を結ぶは善き事なり。

○我等は祈禱を以て己の諸罪を祛ひ除く「爾我に求めしに因りて我其債を悉く爾に免せり」(馬太十八の三十二)實驗も亦之を證す。

○「我が體を食ひ我が血を飲む者は我に居り我も彼に居るなり」(約翰六の五十六)是れ明確にして實驗も亦之を確む熱切に罪を悔改し信仰を以て聖體機密を領する者は至福にして生命に満さる此の眞理は明確にして反對の點より見れば更に明かなり誠實に罪を悔ゆることなく疑念を以て聖體に近づく時は「サタナ」は汝に入り汝の靈魂を殺して汝

の中に居らん是れ汝の太く感觸する所なり。

○諺に曰く「神には凡てのもの近し」と然り凡てのものは近く即ち屬神的及び感覺的の造物天使死者の靈魂悉くの生ける人々悉くの動物悉くの物質世界等皆近し神の神は萬物を貫徹し靈智純潔微妙の神は各信者の敬虔なる靈魂に宿る彼れ曰く「田野の美は我と共にあり」聖詠四十九の十二「我恒に爾等と共にして世の終末まで在るなり」馬太廿八の二十無限の神たる神に取りては一も遠きものあるなし乃ち万物彼の前に在ること尙ほ掌上にあるが如し彼は到る處萬物にありて萬物は彼に在り萬物は彼にて活き且つ存す。

○神及び造られたる諸神と死者并に生者の靈魂は思想的の者なり而